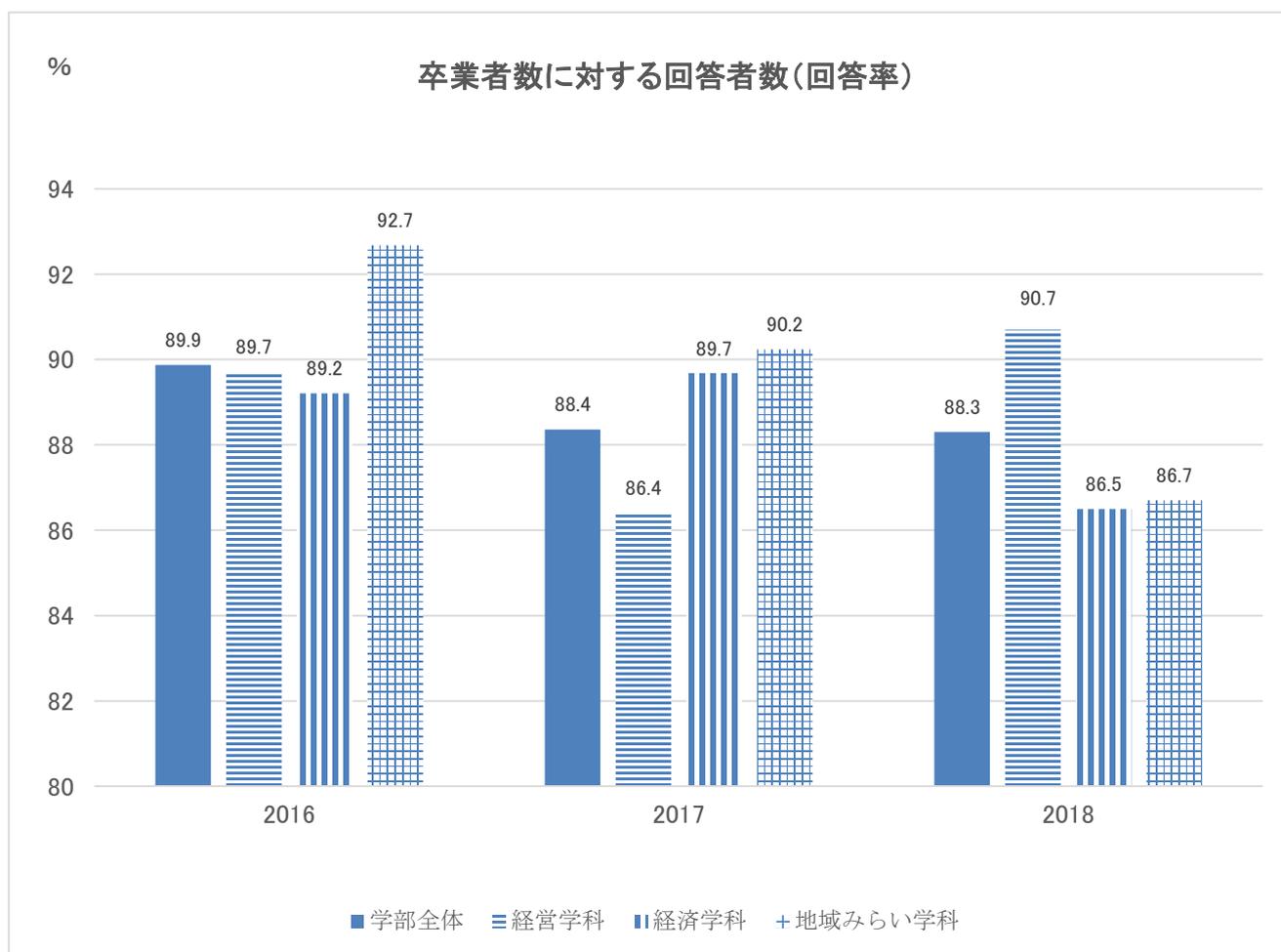


2018 年度卒業アンケート結果に関する報告書 [2016 年度～2018 年度] (案)

本アンケート結果を受けて、学生担当会議で検討を行い、大学の教育機関としての運営に資するため、とりまとめを行うこととした。

1. 2018 年度卒業生数及び回答者数

	学部全体	経営学科	経済学科	地域みらい学科
卒業生数	307	129	133	45
回答者数	271	117	115	39
回答率	88.3%	90.7%	86.5%	86.7%



2. 総評

2018年度について、学修面・学生生活面・キャリア形成面のいずれも満足度において好意的な評価を得ている。

○学修面においては、回答者の半数以上が「自らの頭で考えることが多くなった」「専門的な知識が得られた」「経営・経済にまたがる学際的な知識が得られた」と回答しており、本学の教育課程を肯定的に評価している。その一方で、「経営学や経済学の専門的教育」「資格取得に結びつくような教育」の充実に対する要望が多く、より実学的・実践的な学修に対するニーズの高さも伺える。

○学生生活面においては、「他人との協調性が高まった」「自分とは異なる考えや価値観を持つ他人を受け入れられるようになった」と回答した学生が多く、他者との関わりやコミュニケーションに関する点での成長の実感が高い。学生生活に関連した設備においては、「食堂」「売店」の充実を求める回答が多かった。

○キャリア形成面においては、本学のキャリア形成支援の中で「相談員からのアドバイス」「企業説明会」の支援が役に立ったと回答した学生が多い。また、相談員からのアドバイスのさらなる充実のほか、「OBとの交流会」の充実を求める回答も多かった。

○その他、交通の不便さの解消やパソコンの増台などを要望する意見もあった。

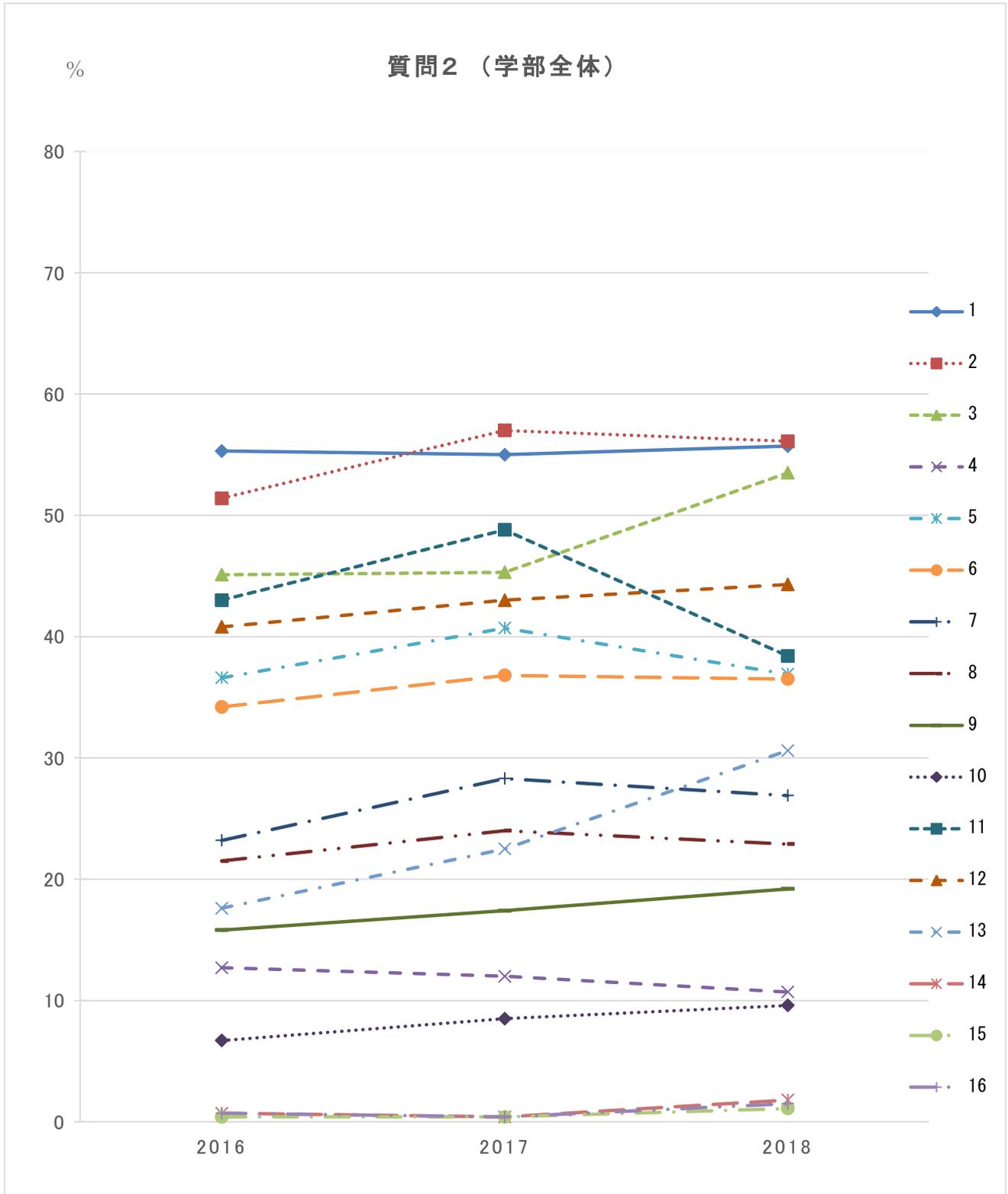
3. 質問項目ごとの分析

※質問1は学籍番号・氏名、質問13は所属学科に関する質問のため省略する。

質問2 授業科目・教育方法・教育内容など、本学における学修面を振り返り、どのようなことが身についたと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

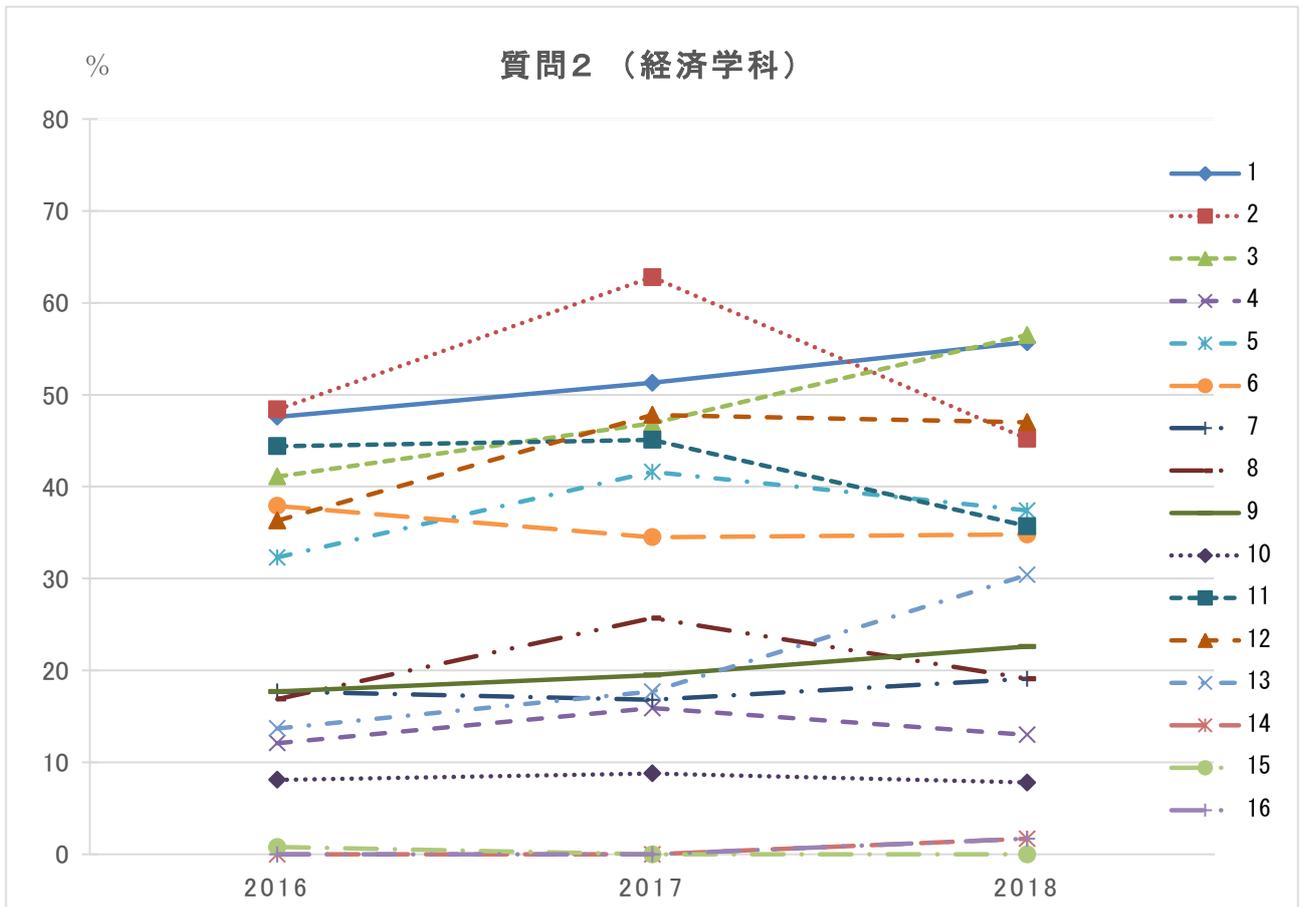
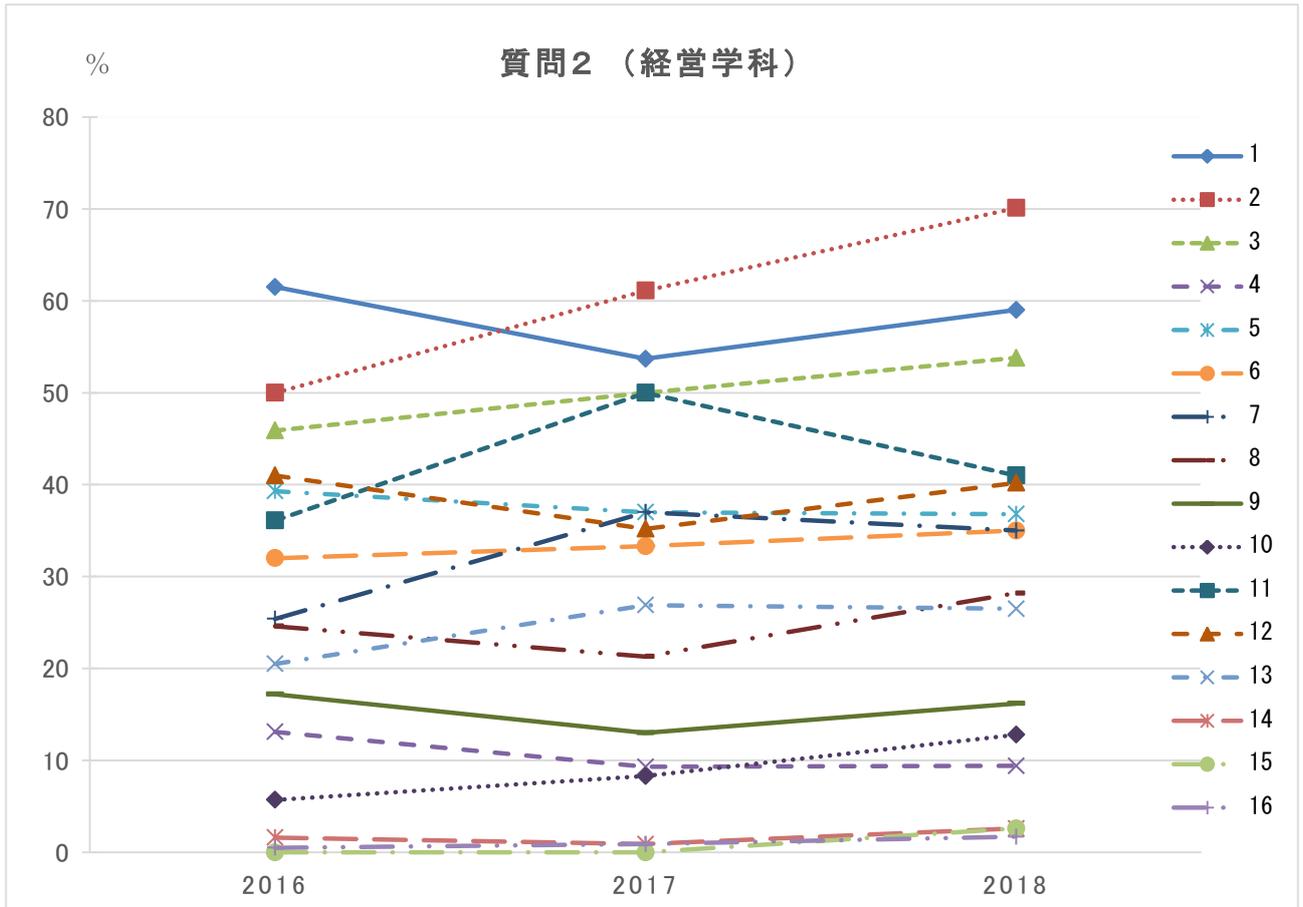
【選択肢】

- 1：自らの頭で考えることが多くなった。
- 2：専門的な知識が得られた。
- 3：経営・経済にまたがる学際的な知識が得られた。
- 4：物事を科学的に考える能力が向上した。
- 5：物事を複眼的な視点で捉えるようになった。
- 6：問題発見・解決の能力が向上した。
- 7：職業上に役立つ知識や技術が身についた。
- 8：専門的な知識を日常生活へ関連づけられるようになった。
- 9：コンピュータなどの情報活用能力が向上した。
- 10：外国語能力が向上した。
- 11：コミュニケーション能力が向上した。
- 12：教養が身についた。
- 13：多様な文化の理解が深まった。
- 14：特に何かが身についたとは思わない。
- 15：その他
- 16：わからない。

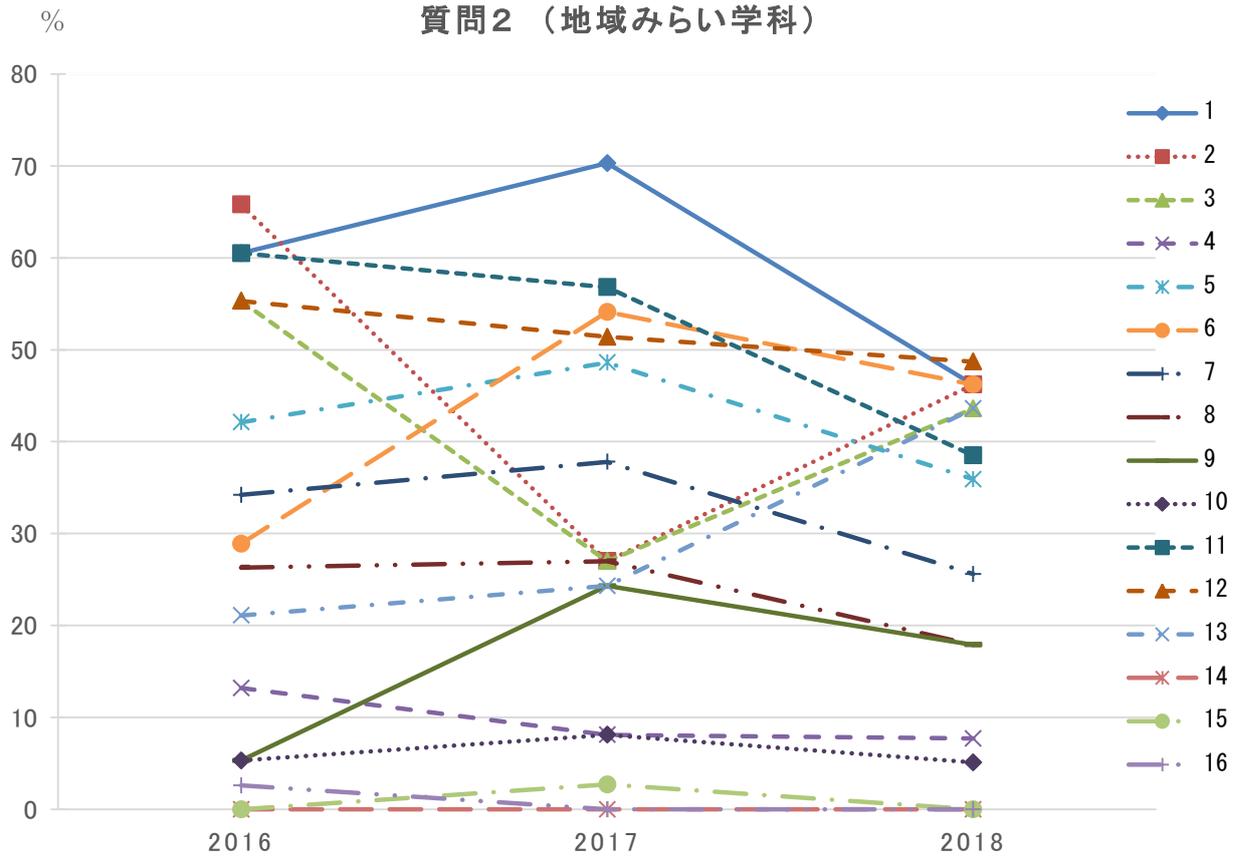


過去3年間において、「1：自らの頭で考えることが多くなった」「2：専門的な知識が得られた」という回答が多く、「14：特に何か身についたとは思わない」「15：その他」「16：わからない」といった否定的な回答が極めて少数であったことから、本学での学修成果に対して、多くの卒業生が肯定的に評価している。

また、2016年度から2018年度において、「13：多様な文化の理解が深まった」と回答した卒業生の割合が10ポイント以上増加している。



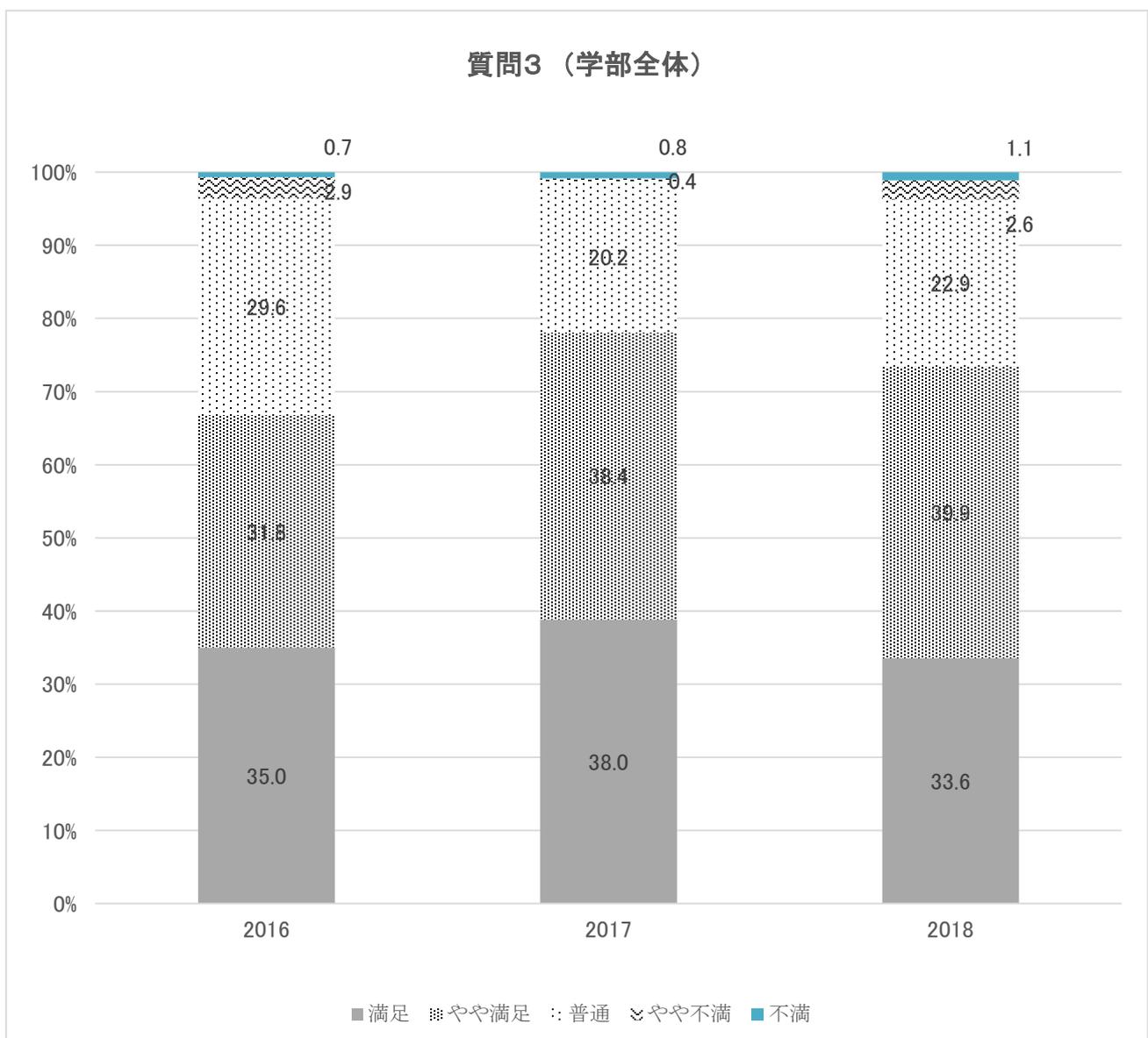
質問2（地域みらい学科）



質問3 本学における学修面を振り返り、全般的な満足度はいかがでしたか。あてはまる箇所には○をつけてください。

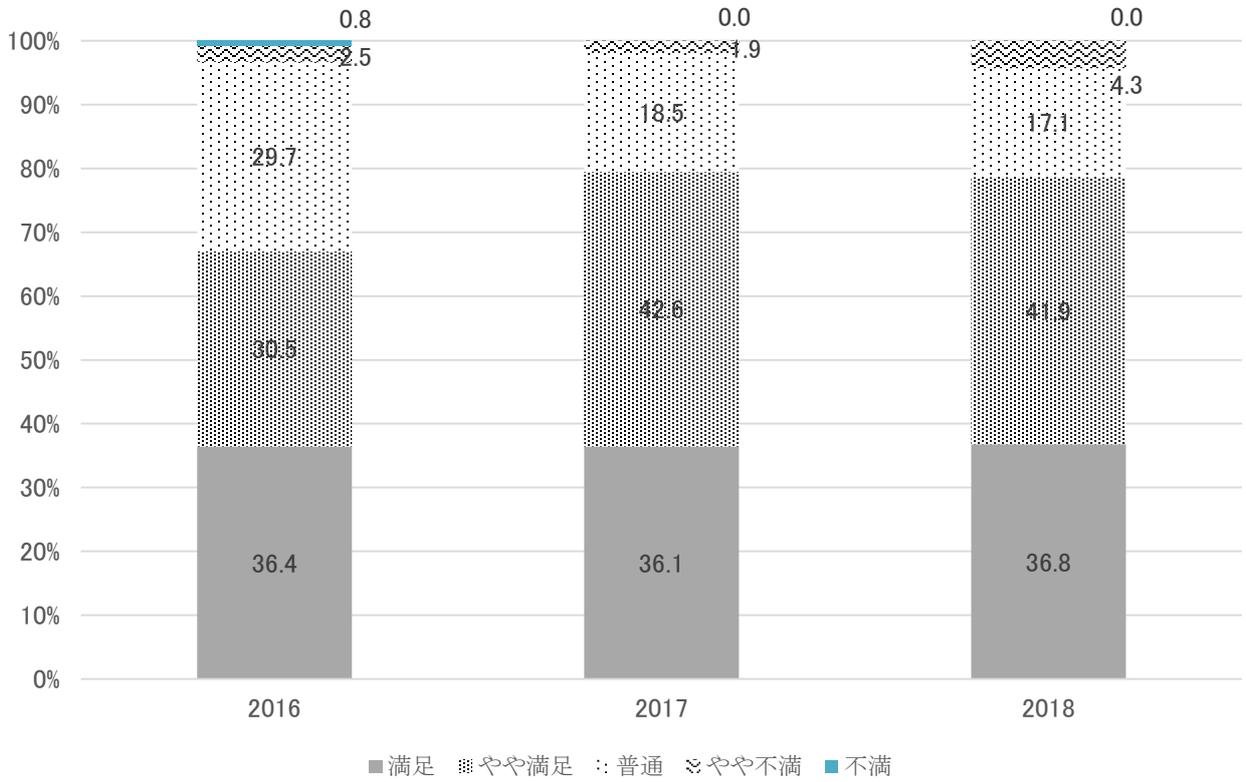
【選択肢】

- 1：満足
- 2：やや満足
- 3：普通
- 4：やや不満
- 5：不満

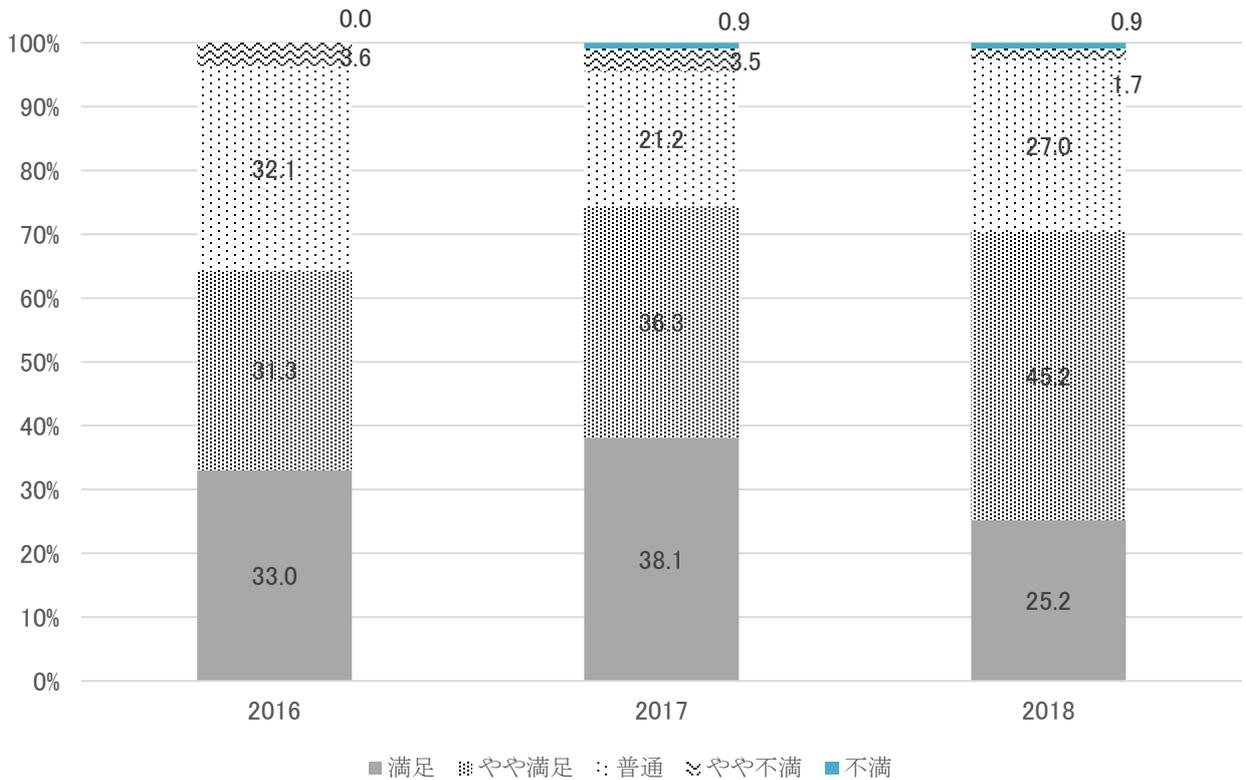


過去3年間において、回答内容に変動はあるものの、「満足」「やや満足」「普通」と回答した卒業生の割合は90%を超えていることから、好意的な評価を得ていると言える。

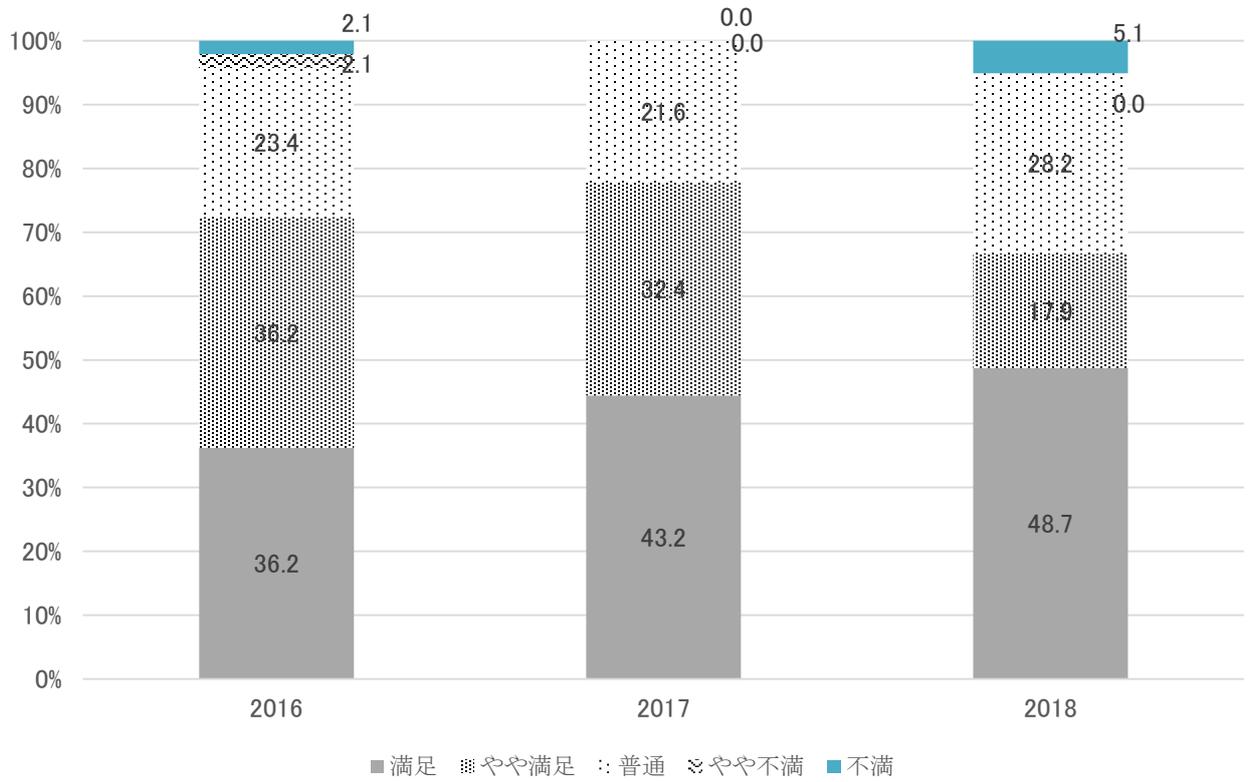
質問3（経営学科）



質問3（経済学科）



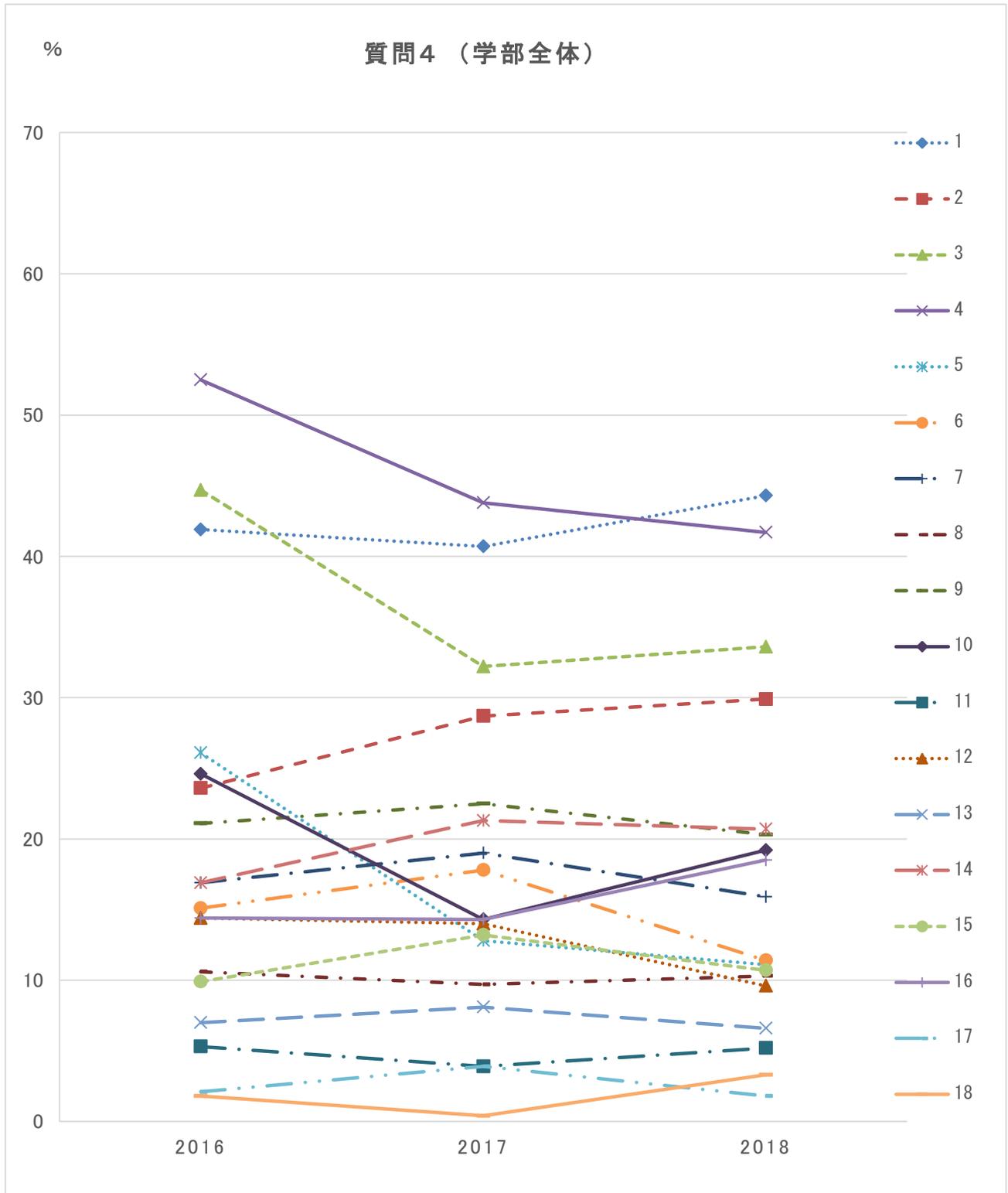
質問3（地域みらい学科）



質問4 学修面および関連設備に関し、青森公立大学はどの分野を充実するのが望ましいと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

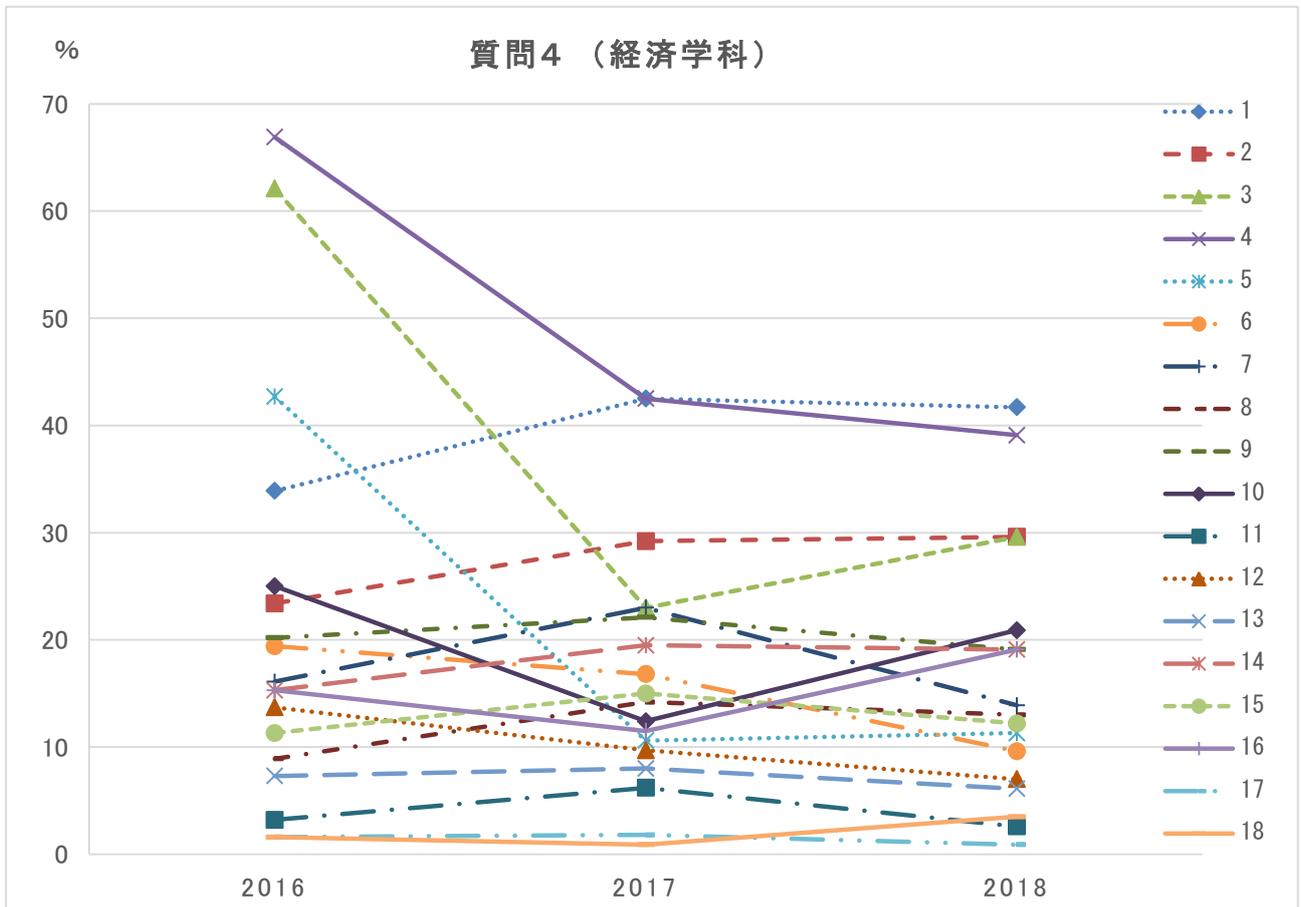
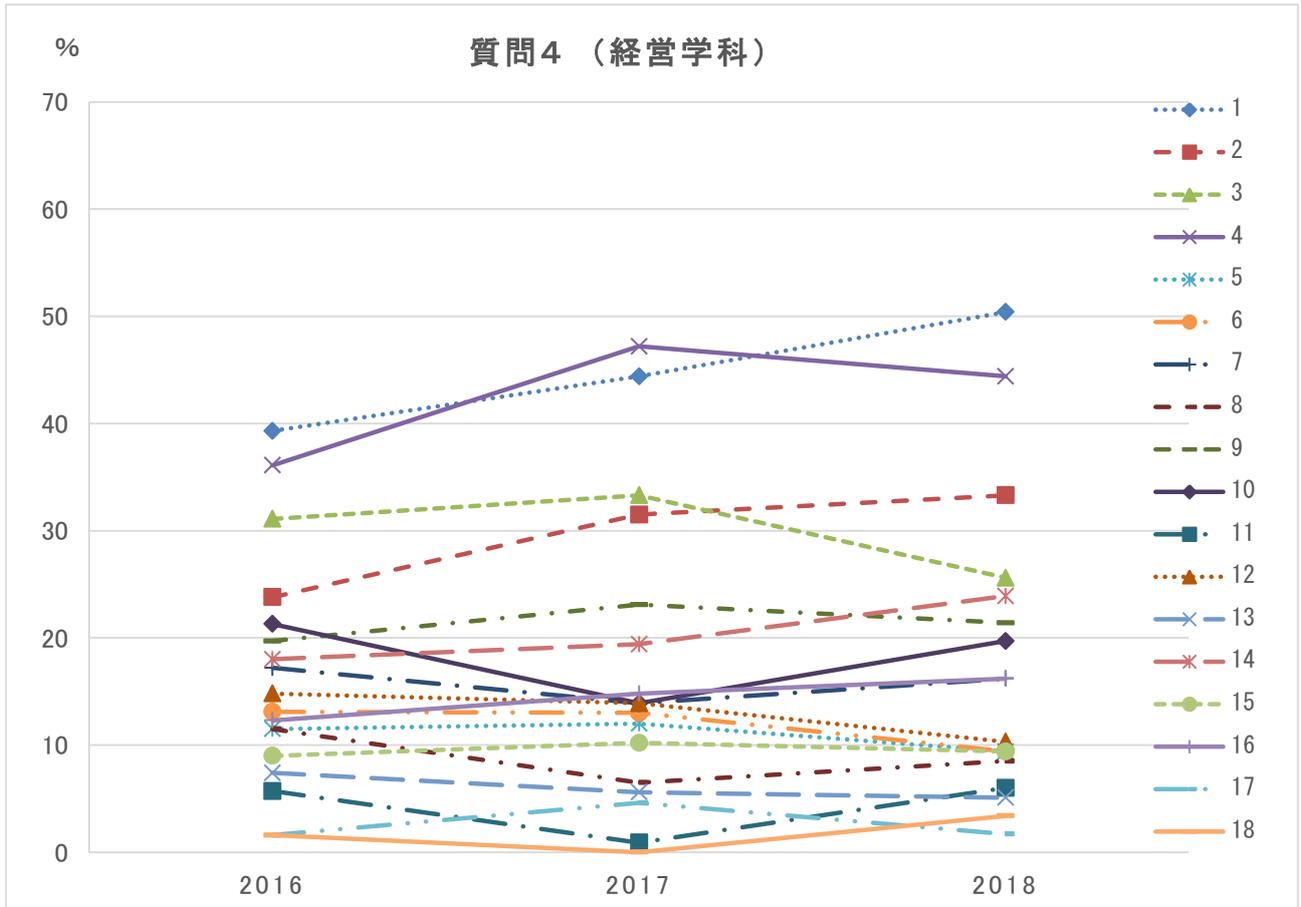
【選択肢】

- 1：経営学や経済学の専門的教育
- 2：経営・経済にまたがる学際的な教育
- 3：フィールドワークや体験を重視する教育
- 4：資格取得に結びつくような教育
- 5：教えるべきことの厳選や徹底
- 6：少人数教育
- 7：情報教育
- 8：教養教育
- 9：外国語教育
- 10：コミュニケーション教育
- 11：リメディアル教育（高校までの復習）
- 12：履修相談など、履修関連の支援体制
- 13：学修アドバイザーなどの学修支援体制
- 14：教室やコンピュータなどの教育施設設備
- 15：図書館
- 16：掲示板やホームページなど、大学から学生への情報伝達システム
- 17：その他
- 18：わからない。

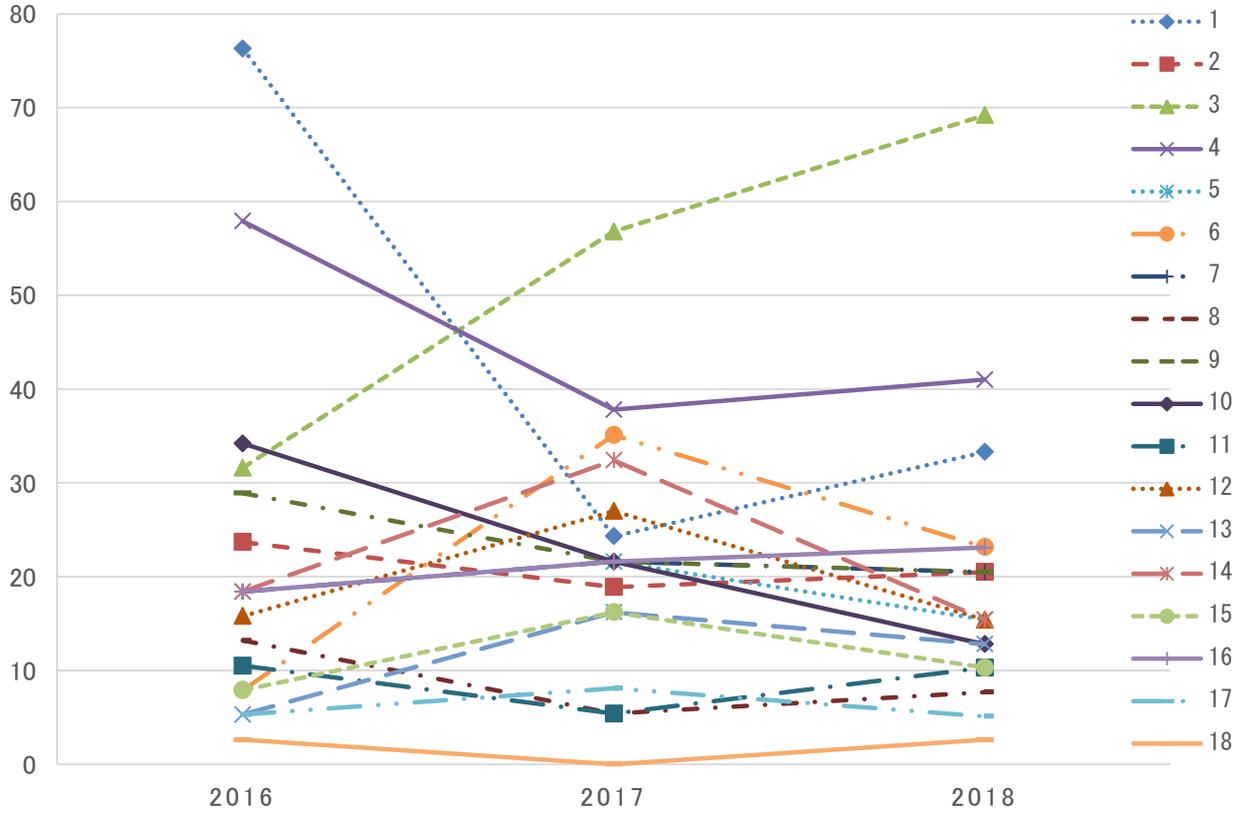


過去3年間いずれの年度も、「1:経営学や経済学の専門的教育」「4:資格取得に結びつくような教育」の充実を求める回答が40%を超えている。

ただし、「充実するのが望ましい」という文言は多義的であり、年度によって変動が見られることから、さらなる充実を求めているのか、現状に不満なのか解釈が分かれるところであり、分析上、留意が必要であるが、学生にとって関心が高い分野であると言える。



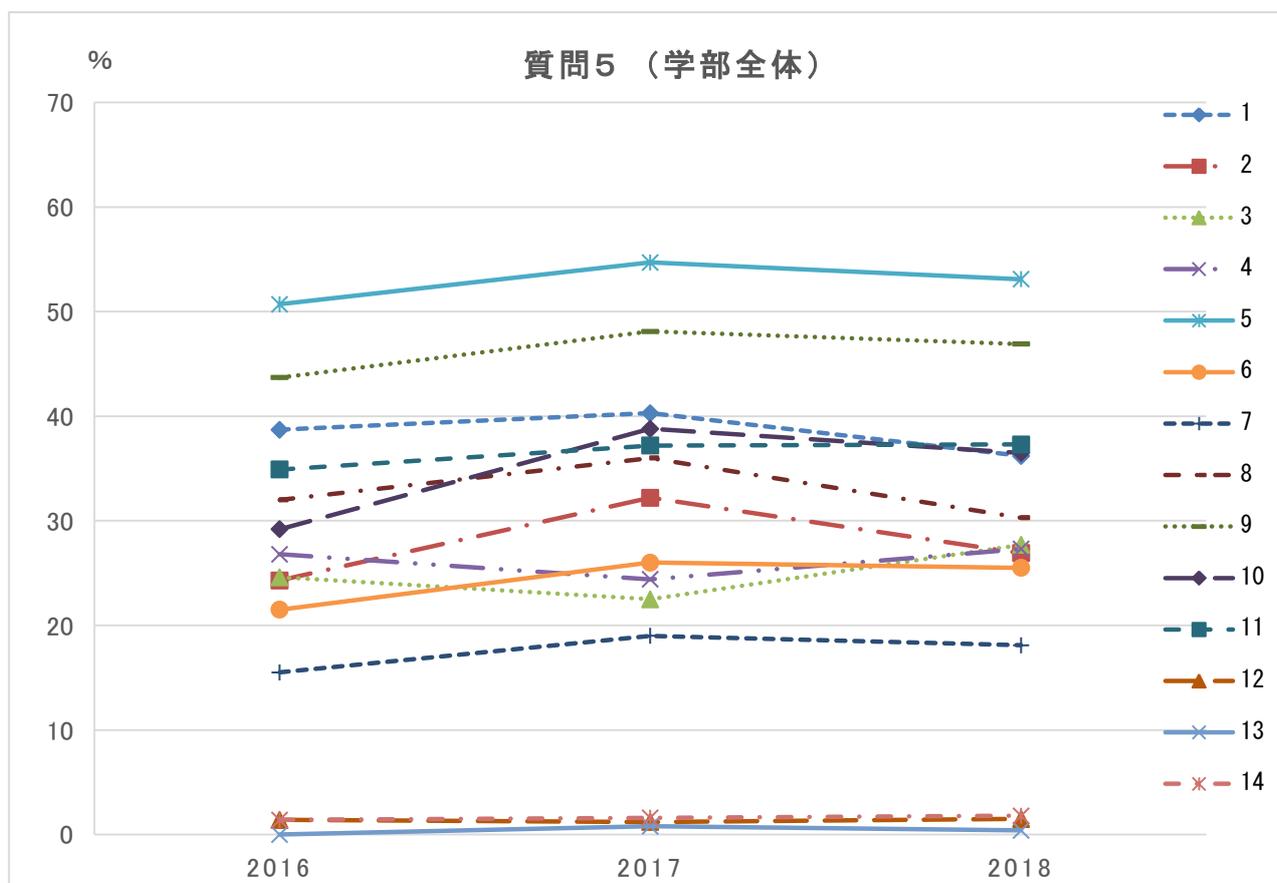
質問4 (地域みらい学科)



質問5 課外活動などを含め、大学での学生生活を振り返り、どのように人間的に成長したと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

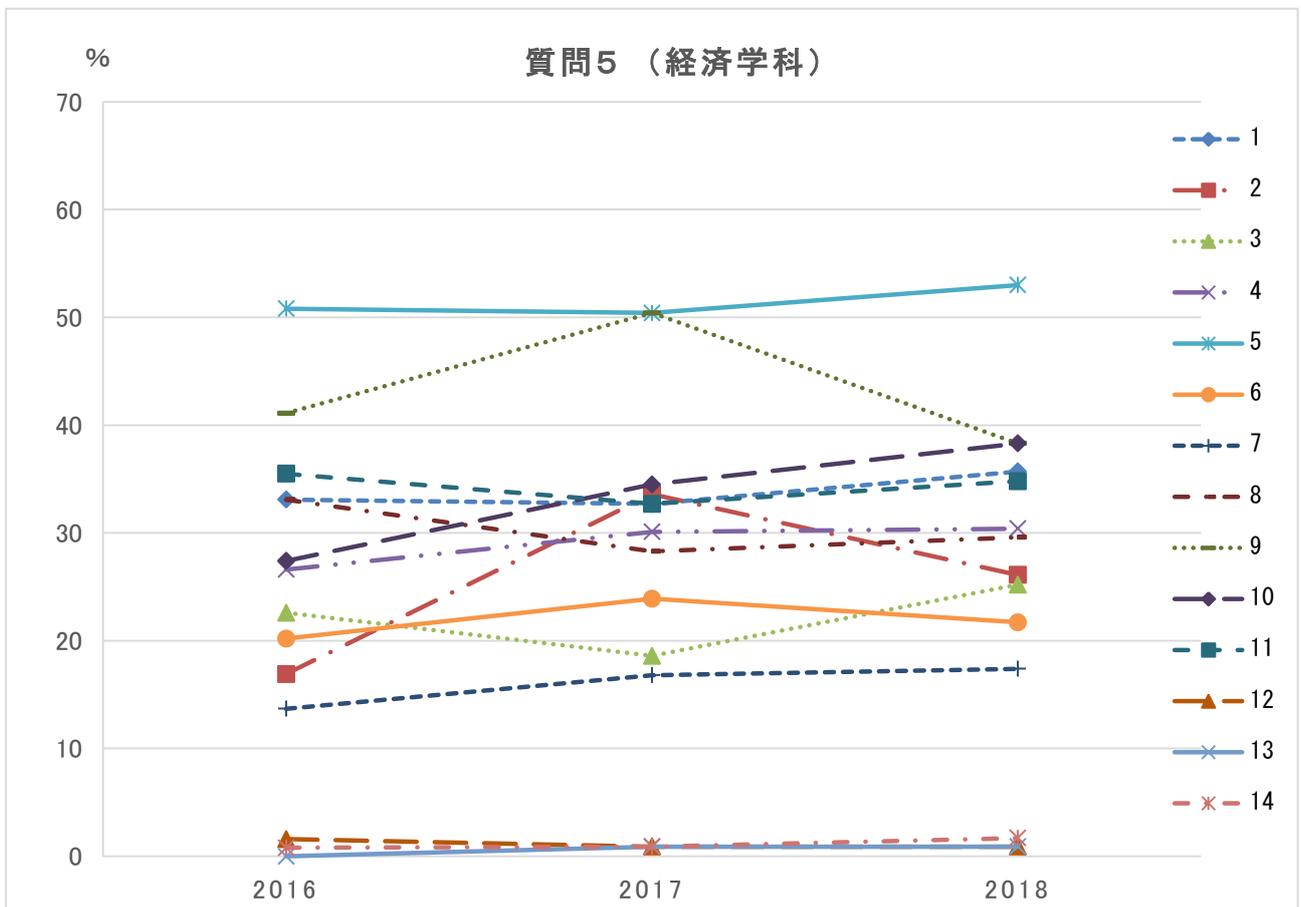
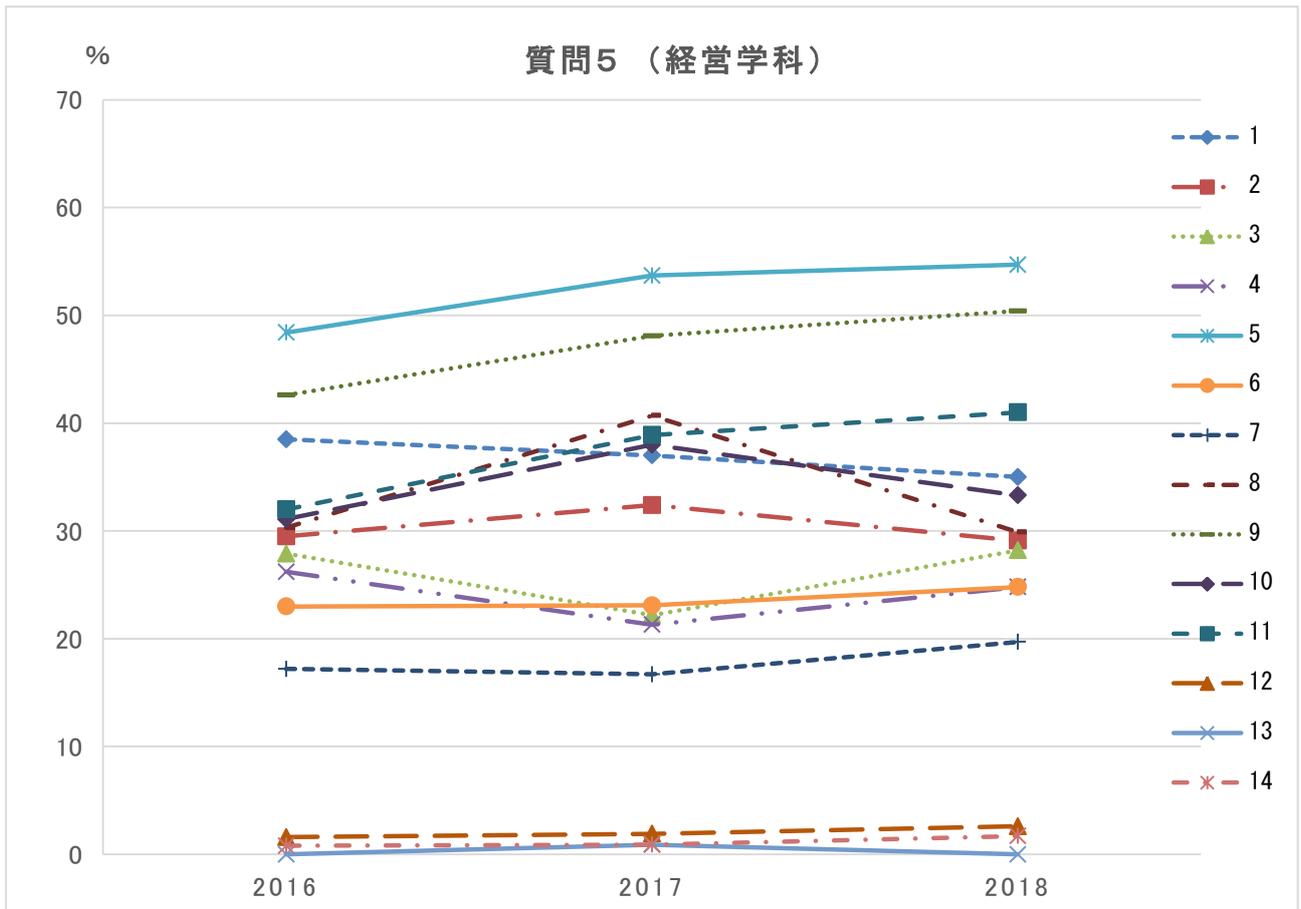
【選択肢】

- 1：社会の一員としての自覚をもち、地域社会と積極的に関わるようになった。
- 2：「生きること＝学ぶこと」が理解でき、生涯にわたって学びをつづける姿勢が身についた。
- 3：創造的な発想力が養われた。
- 4：真実を探るための批判的思考力が高まった。
- 5：他人との協調性が高まった。
- 6：既成概念にとらわれず挑戦する柔軟な心が養われた。
- 7：公德心や倫理観が高まった。
- 8：学んだことを他者や社会へ役立てようとするようになった。
- 9：自分とは異なる考えや価値観を持つ他人を受け入れられるようになった。
- 10：社会的責任を踏まえた行動力が養われた。
- 11：生活面での自己管理能力が向上した。
- 12：特に成長したとは思わない。
- 13：その他
- 14：わからない。

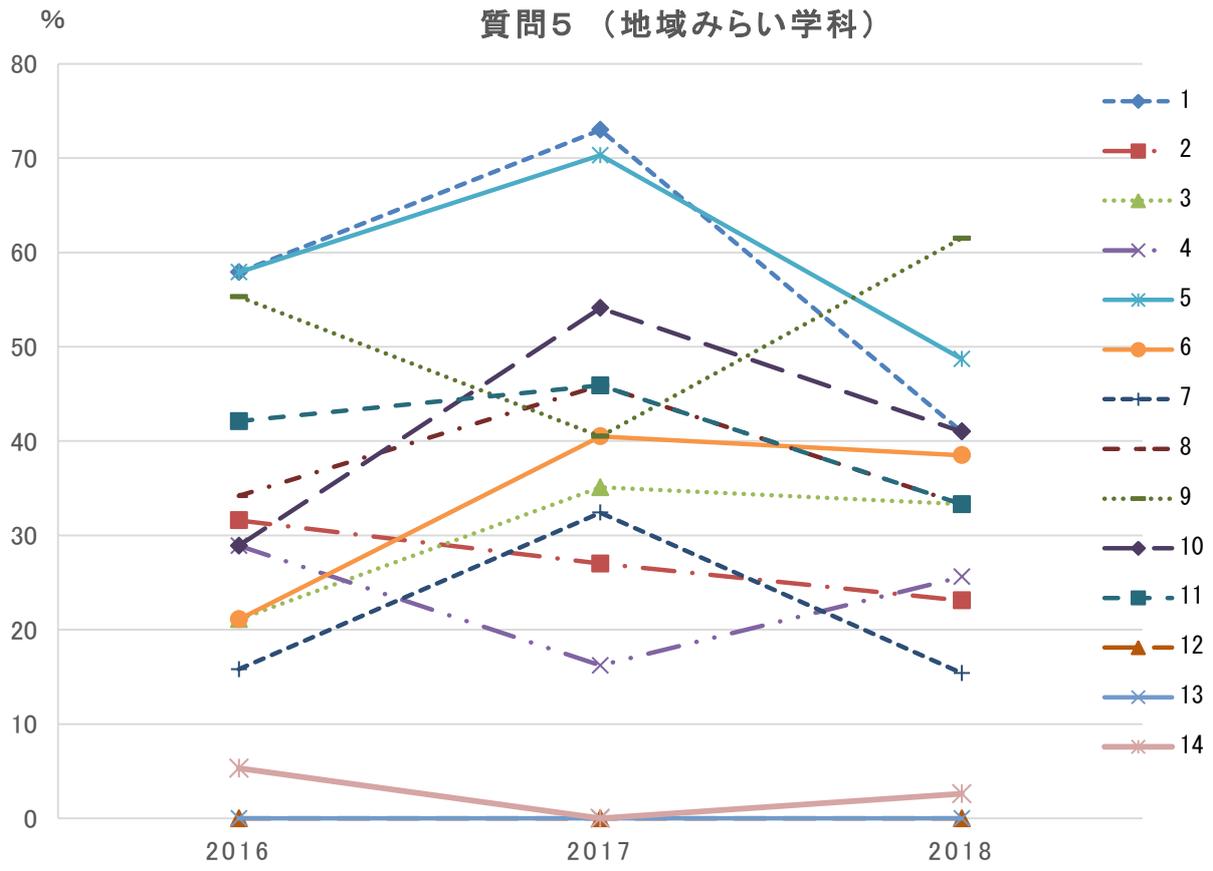


過去3年間いずれの年度も同様の回答状況であり、「5：他人との協調性が高まった。」「9：自分とは異なる考えや価値観を持つ他人を受け入れられるようになった。」という回答が多く、他者との関わりやコミュニケーションに関する点での成長の実感が高いと言える。

また、「12：特に成長したとは思わない」「13：その他」「14：わからない」といった否定的な回答は極めて少数であった。



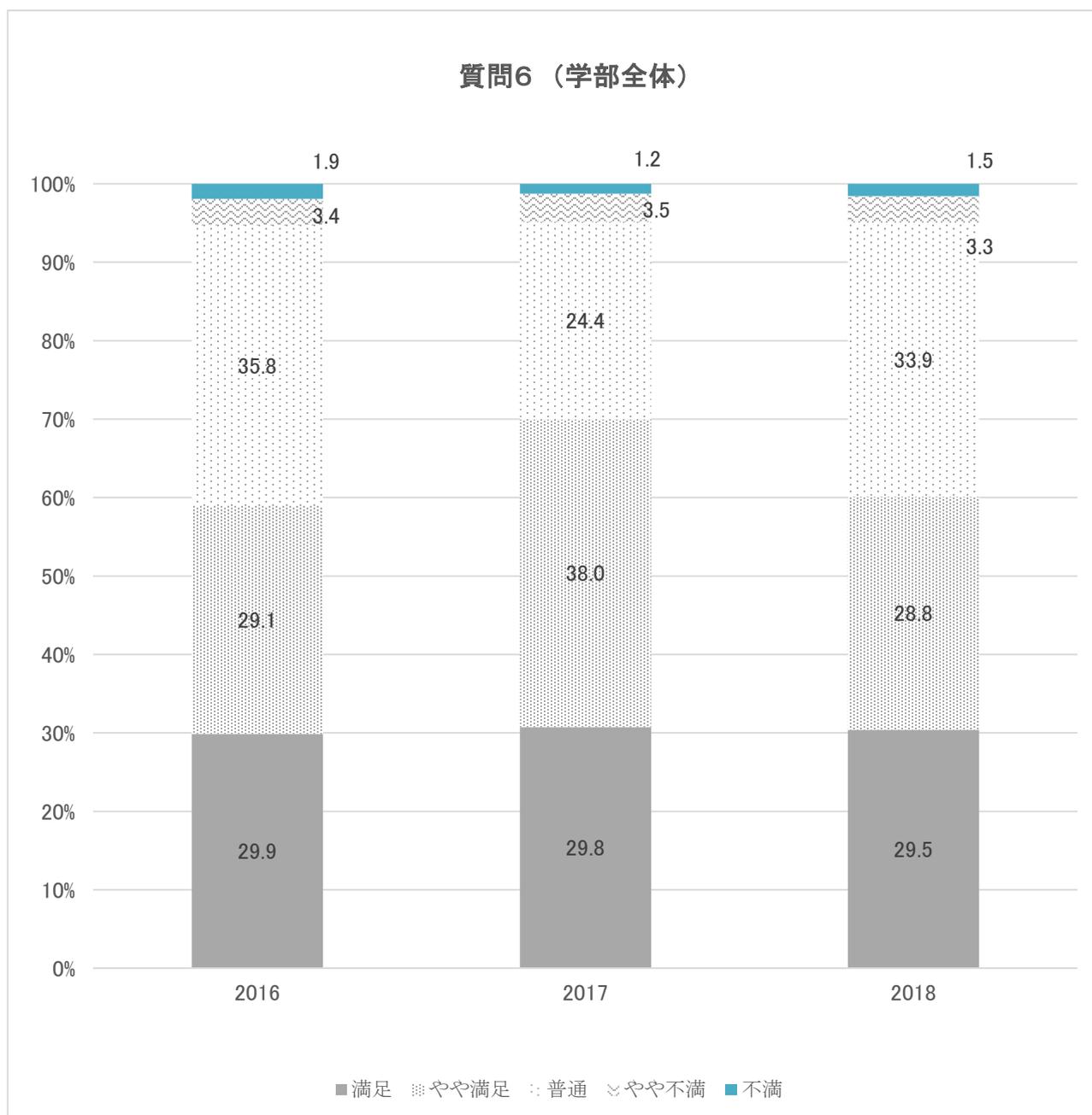
質問5 (地域みらい学科)



質問6 学修以外の学生生活（課外活動、福利厚生など）に関し、全般的な満足度はいかがでしたか。
 あてはまる箇所に○をつけてください。

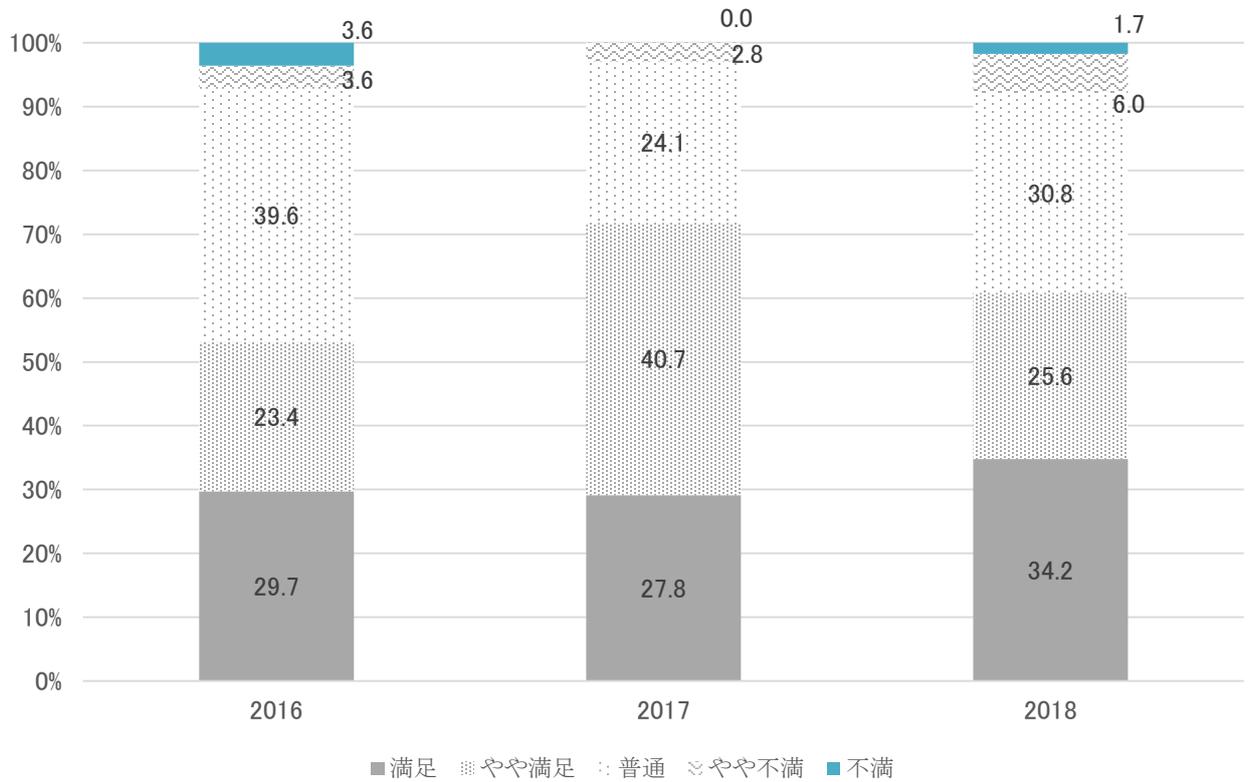
【選択肢】

- 1：満足
- 2：やや満足
- 3：普通
- 4：やや不満
- 5：不満

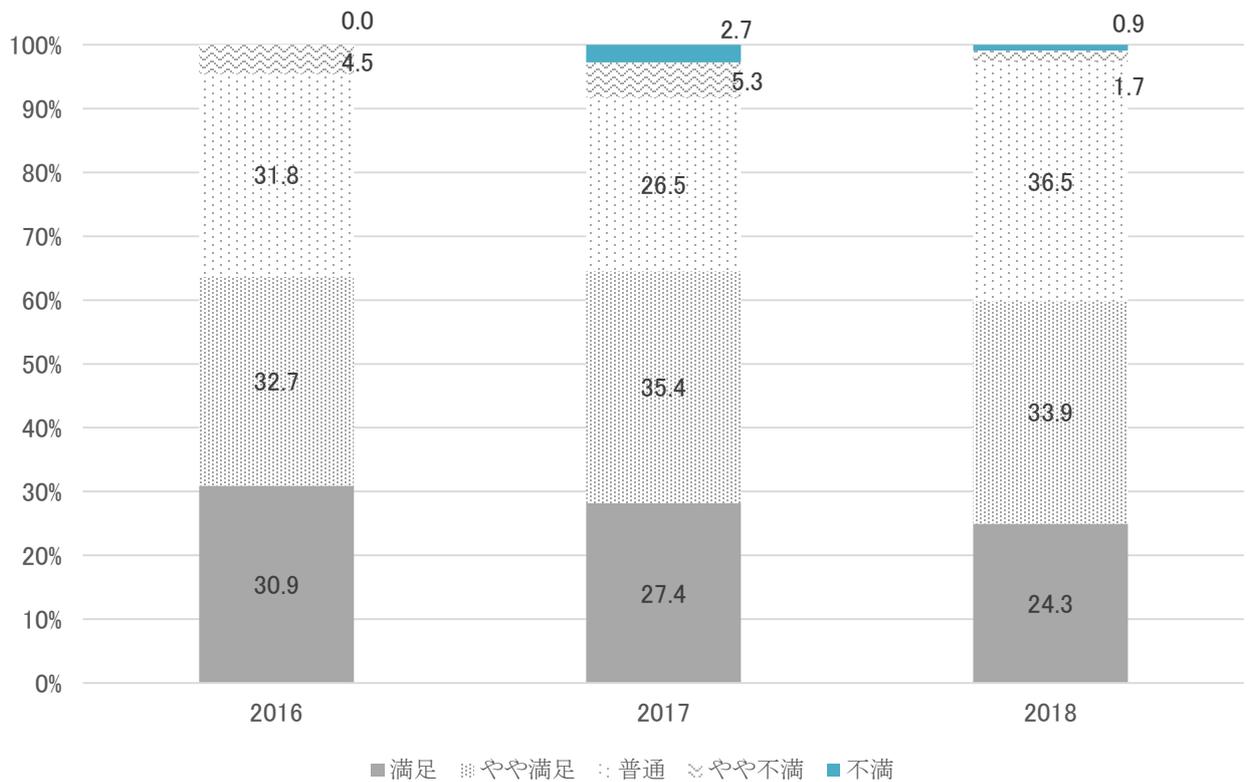


過去3年間において、回答内容に変動はあるものの、「満足」「やや満足」「普通」と回答した卒業生の割合は90%を超えていることから、好意的な評価を得ていると言える。

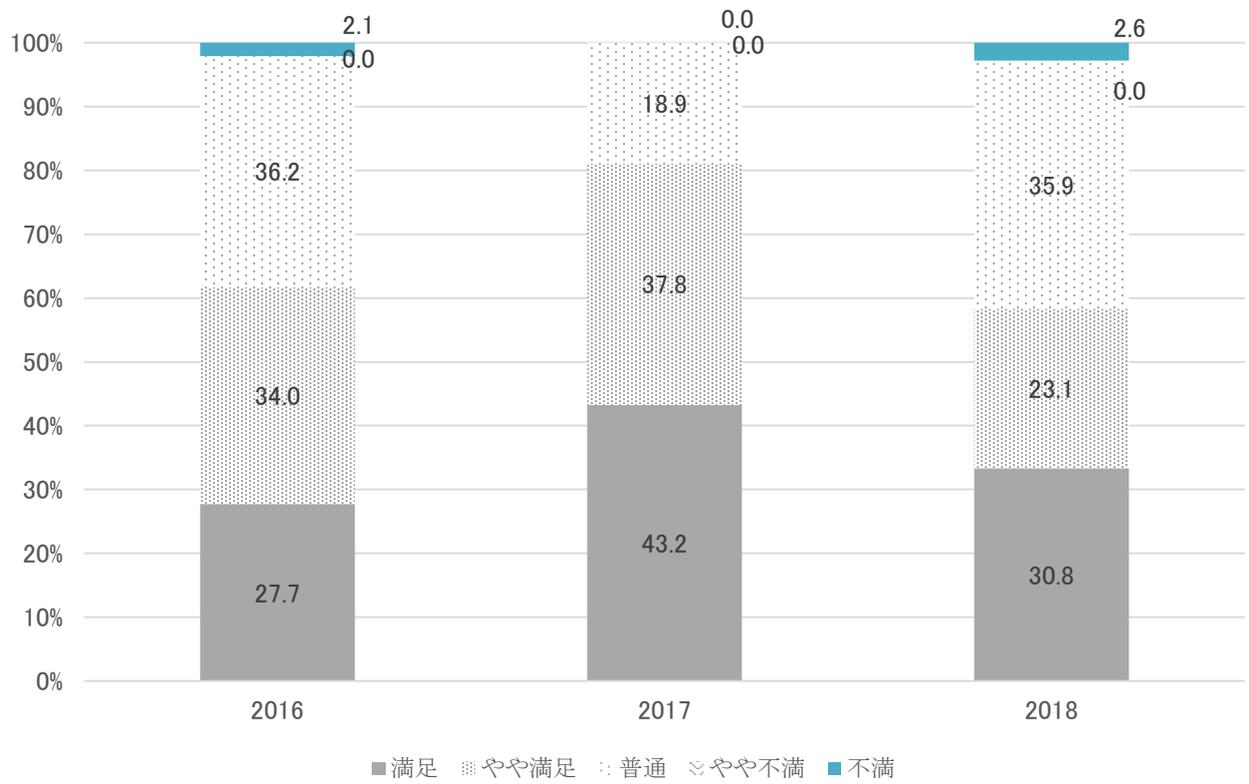
質問6（経営学科）



質問6（経済学科）



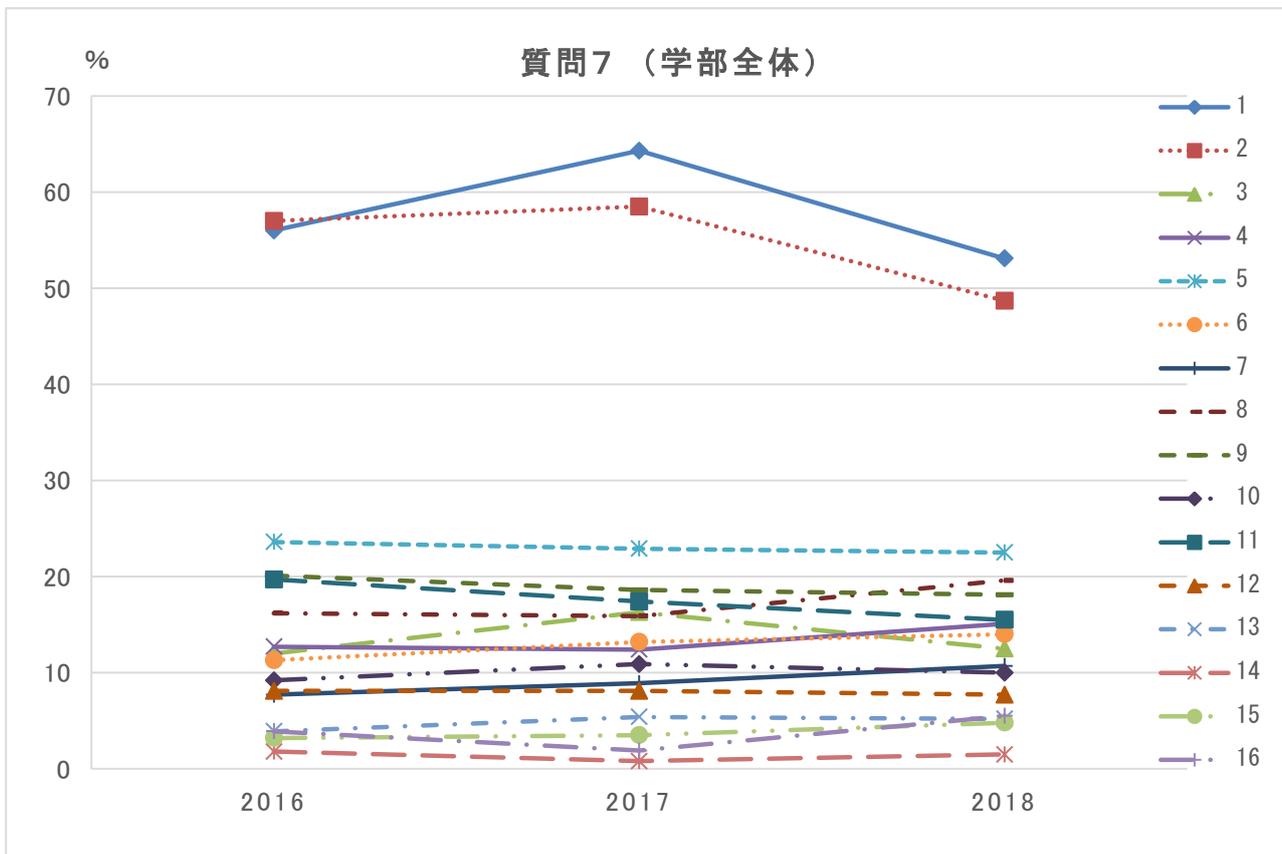
質問6（地域みらい学科）



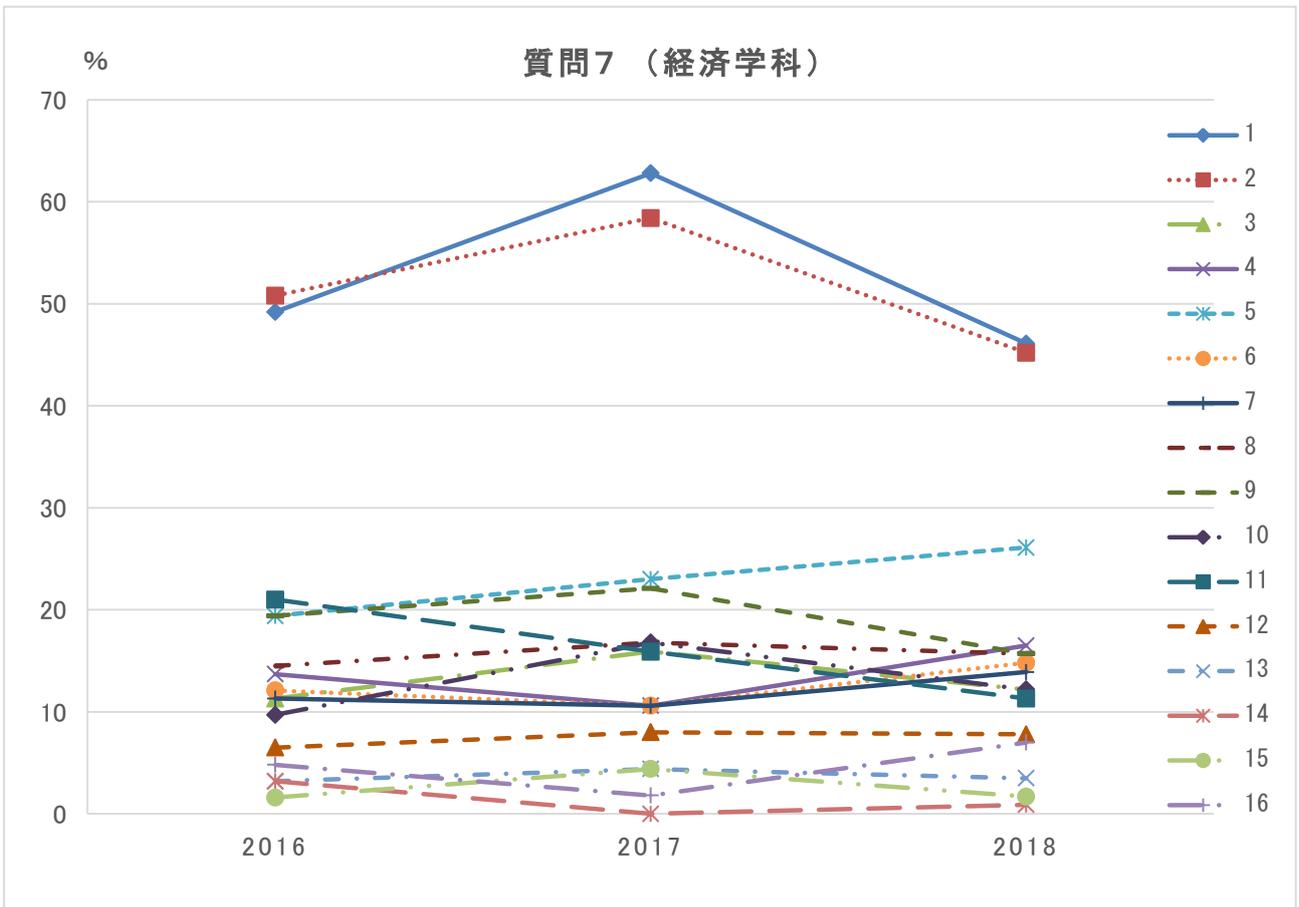
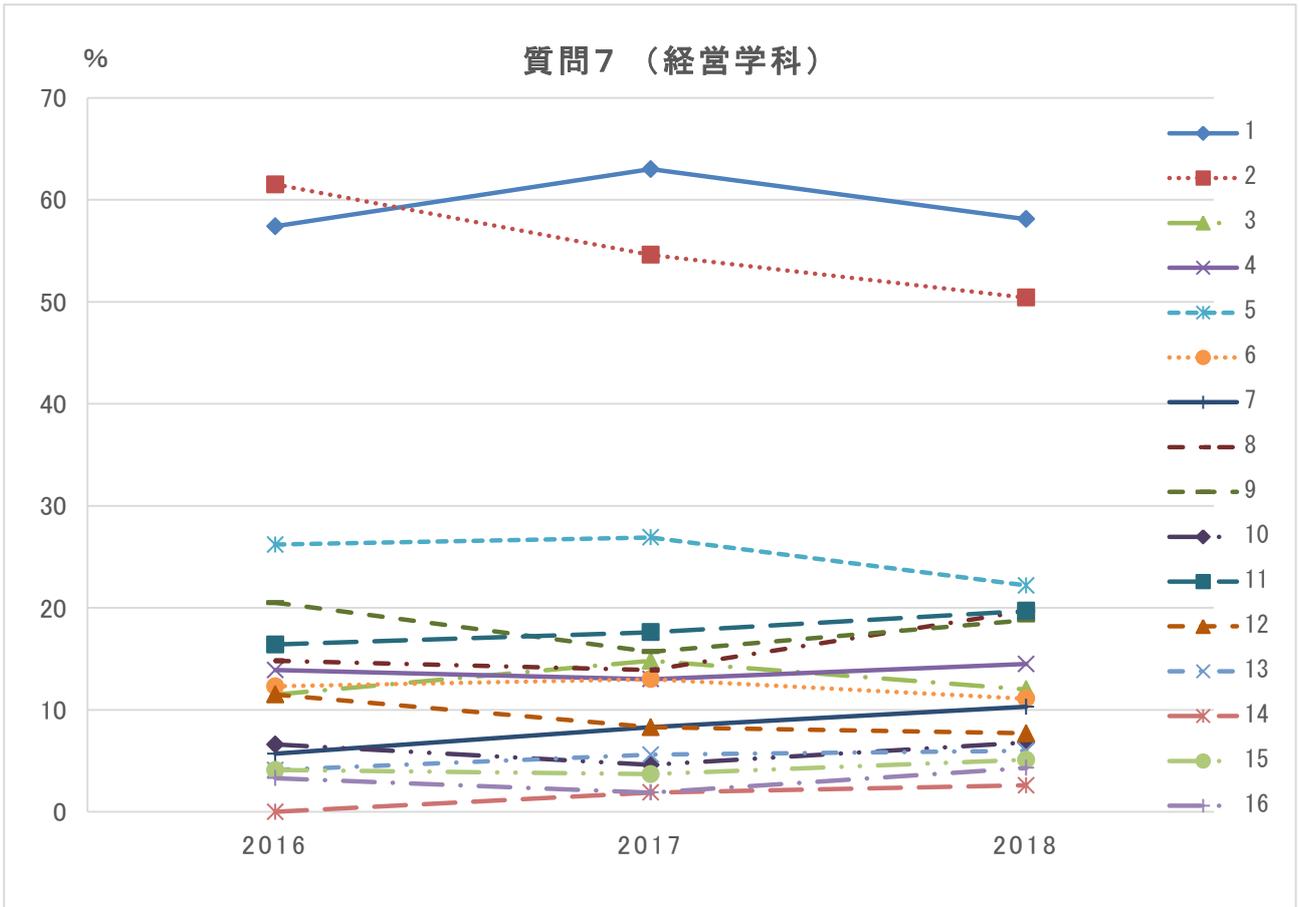
質問7 学生生活および関連設備に関し、青森公立大学はどの分野、どの支援を充実させることが望ましいと思われますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

【選択肢】

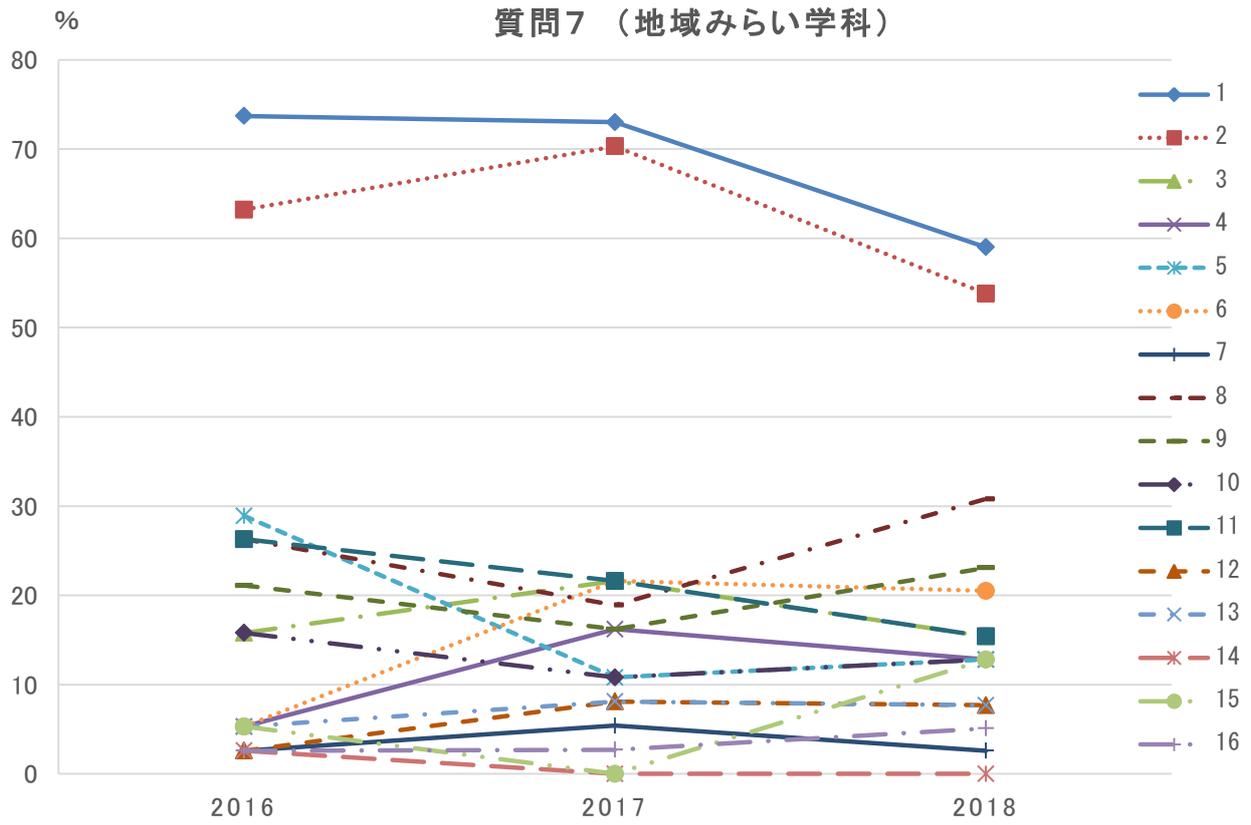
- 1：食堂
- 2：売店
- 3：その他の福利厚生施設（学生交流施設など）
- 4：育英・奨学制度
- 5：スポーツに関連した部活・サークル活動
- 6：文化や研究など、スポーツ以外の部活・サークル活動
- 7：外部の人による講演
- 8：国際交流
- 9：他大学との学生交流
- 10：ボランティア活動
- 11：アルバイト情報
- 12：学生生活支援に関するアドバイザー制度
- 13：メンタルヘルス相談やハラスメント相談など、相談支援体制
- 14：同窓会
- 15：その他
- 16：わからない。



過去3年間いずれの年度も同様の回答状況であり、「1：食堂」「2：売店」の充実を求める回答が半数を超えており、学生にとって関心の高い分野であると言える。



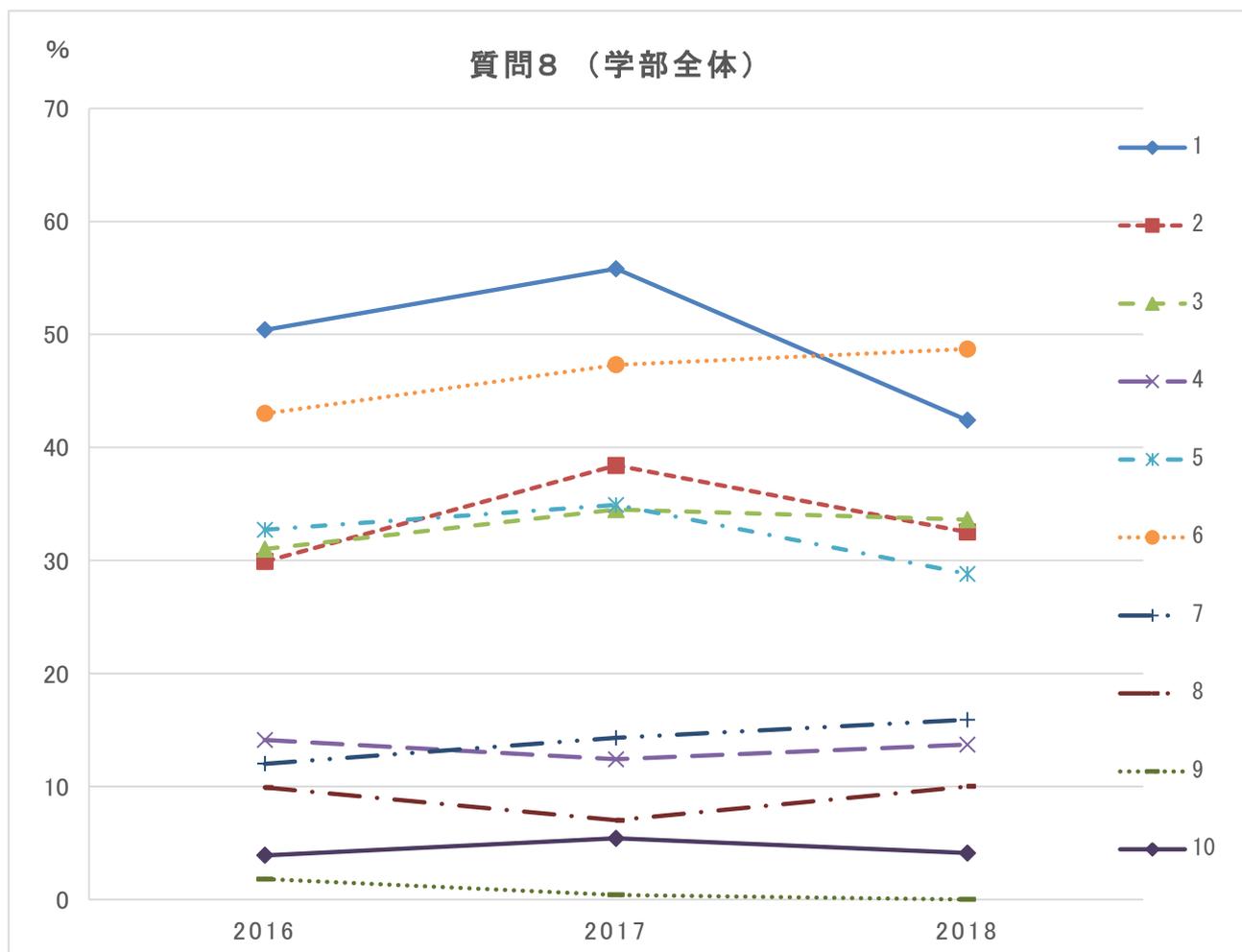
質問7 (地域みらい学科)



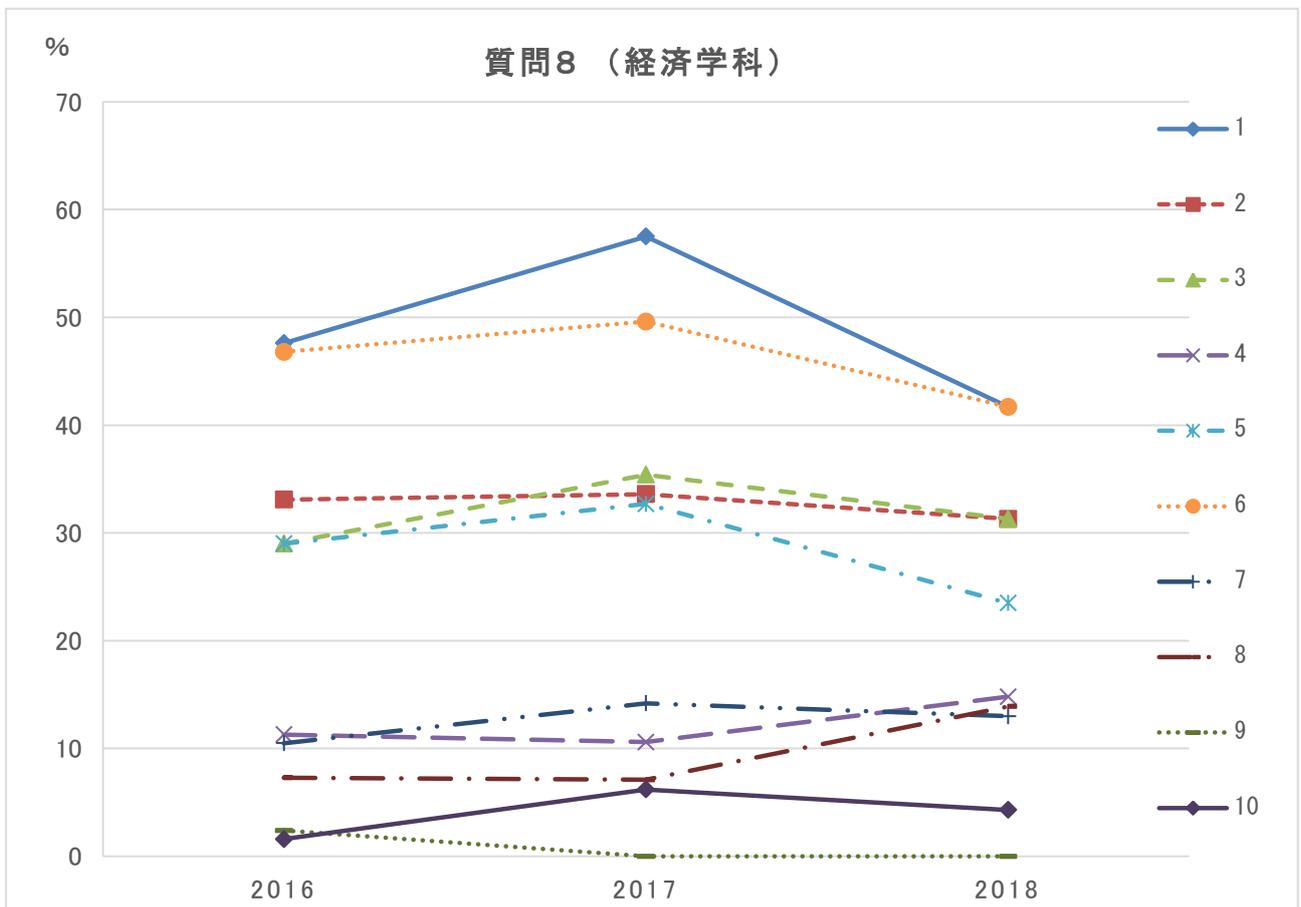
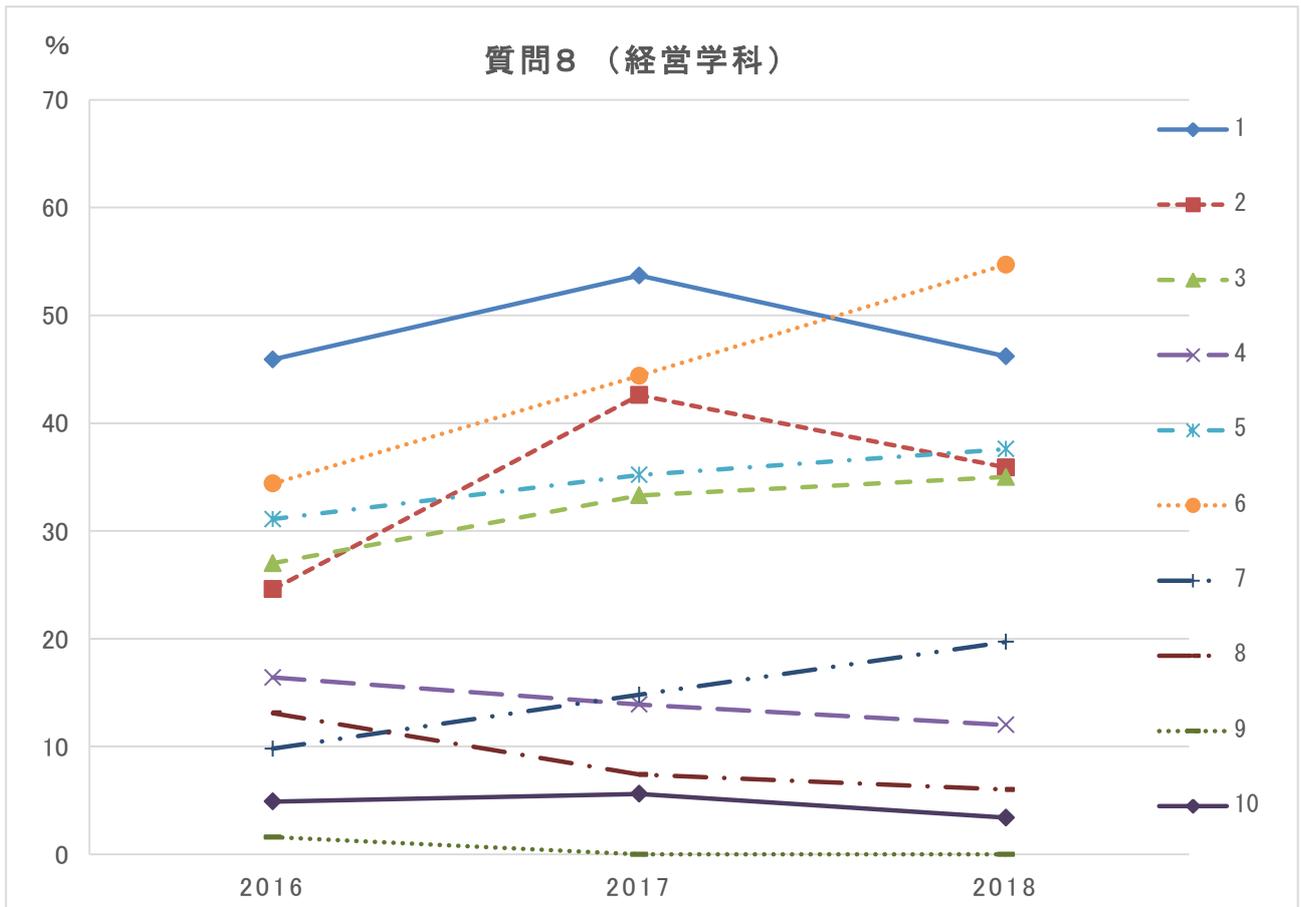
質問8 就職活動や就業体験などに関し、本学のキャリア形成支援を振り返り、役立った項目を選んでください。あてはまるもの全てに○をつけてください。

【選択肢】

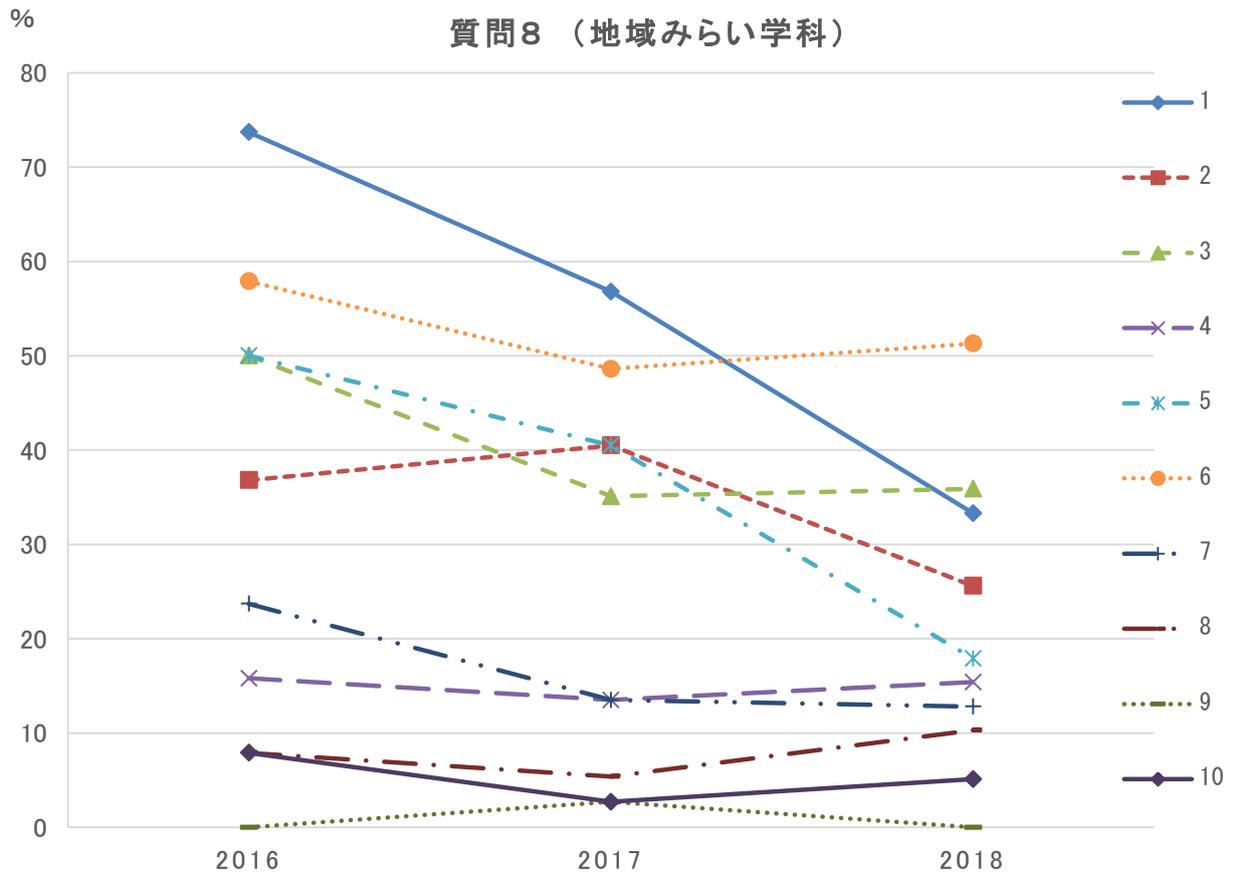
- 1：相談員からのアドバイス
- 2：求人情報や企業情報
- 3：面接トレーニング
- 4：キャリア教育科目・講座
- 5：就職ガイダンス
- 6：企業説明会
- 7：インターンシップ
- 8：特に役立ったものはなかった。
- 9：その他
- 10：わからない。



過去3年間において、回答状況に変動はあるものの、「1：相談員からのアドバイス」「6：企業説明会」の支援が役に立ったと回答した卒業生が多く、それぞれ40%を超えている。



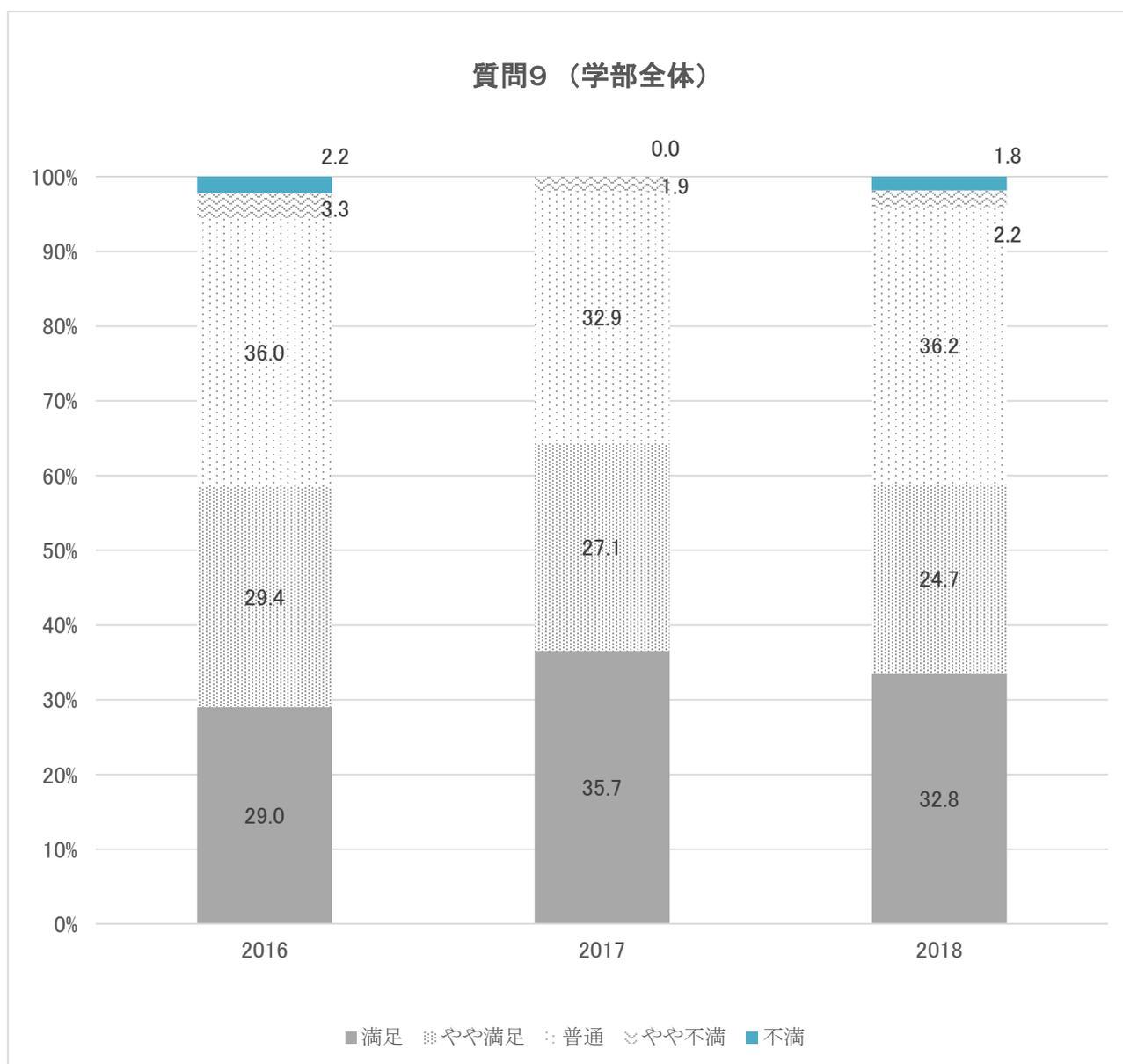
質問8 (地域みらい学科)



質問9 本学のキャリア形成支援を振り返り、全般的な満足度はいかがでしたか。あてはまる箇所に○をつけてください。

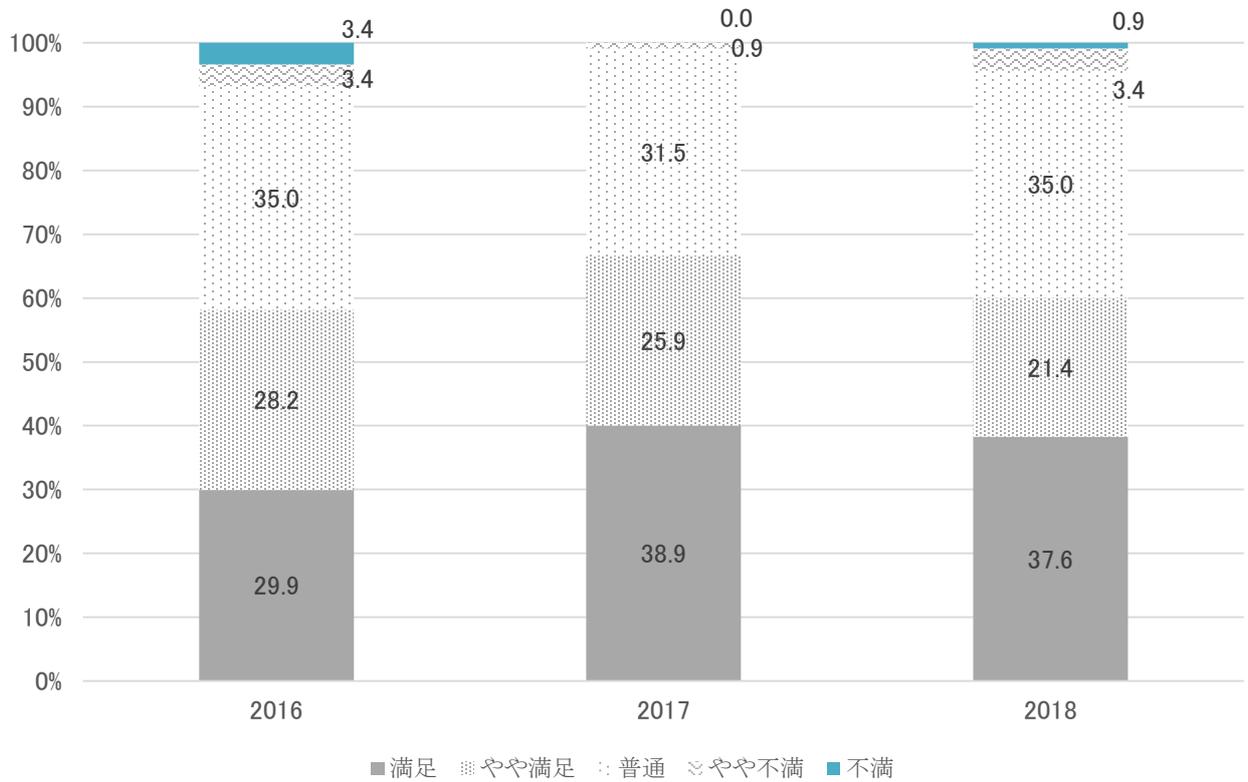
【選択肢】

- 1：満足
- 2：やや満足
- 3：普通
- 4：やや不満
- 5：不満

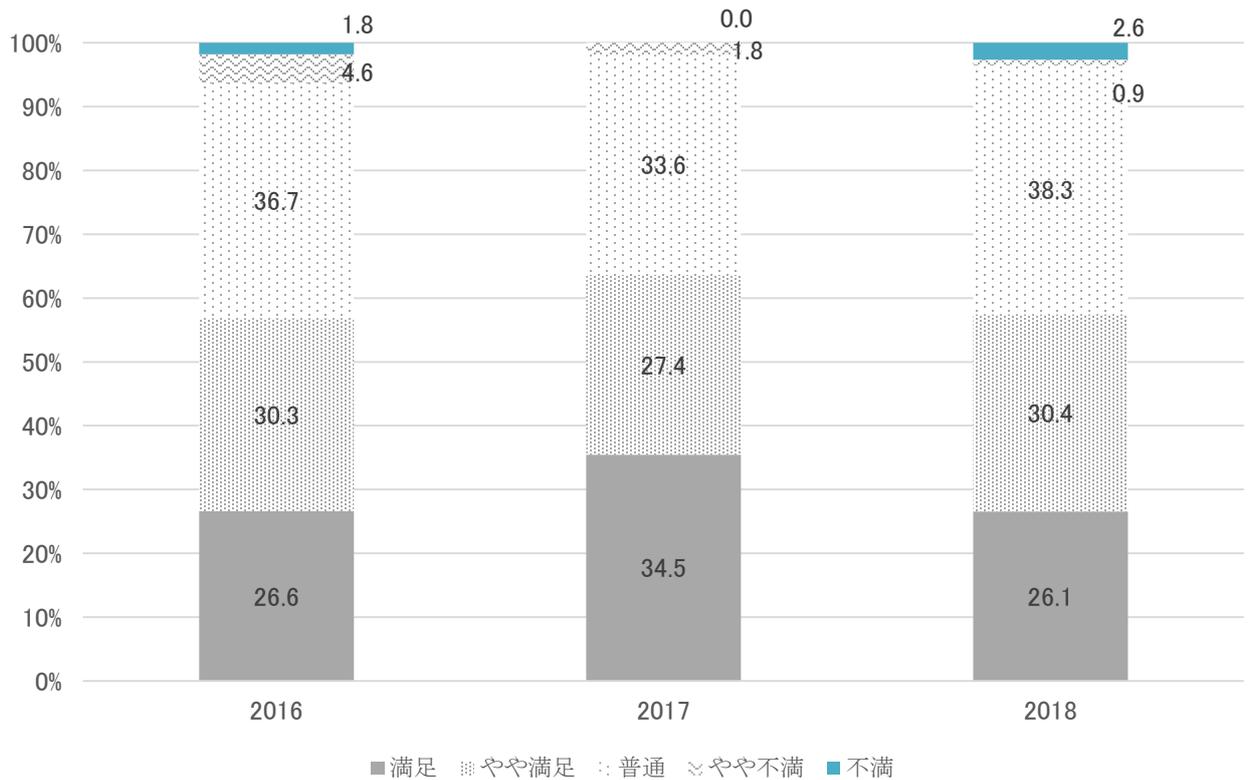


過去3年間において、回答内容に変動はあるものの、「満足」「やや満足」「普通」と回答した卒業生の割合は90%を超えていることから、好意的な評価を得ていると言える。

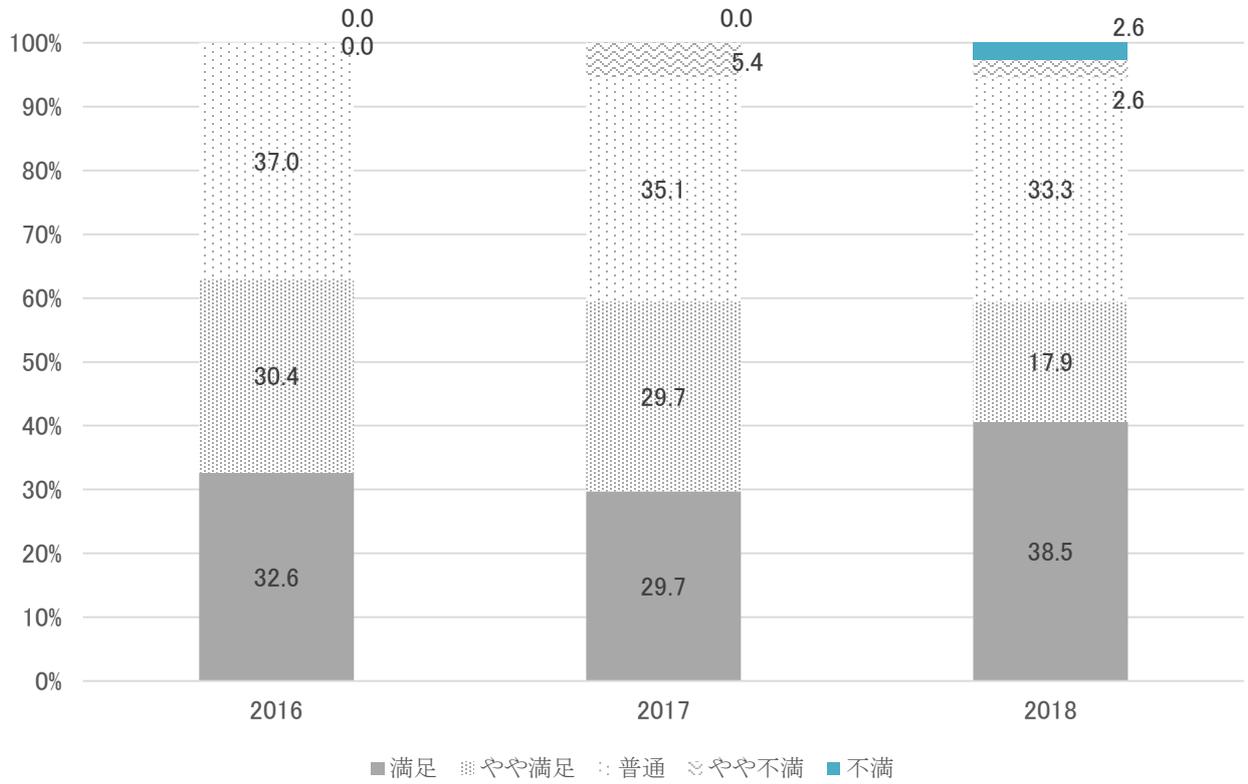
質問9（経営学科）



質問9（経済学科）



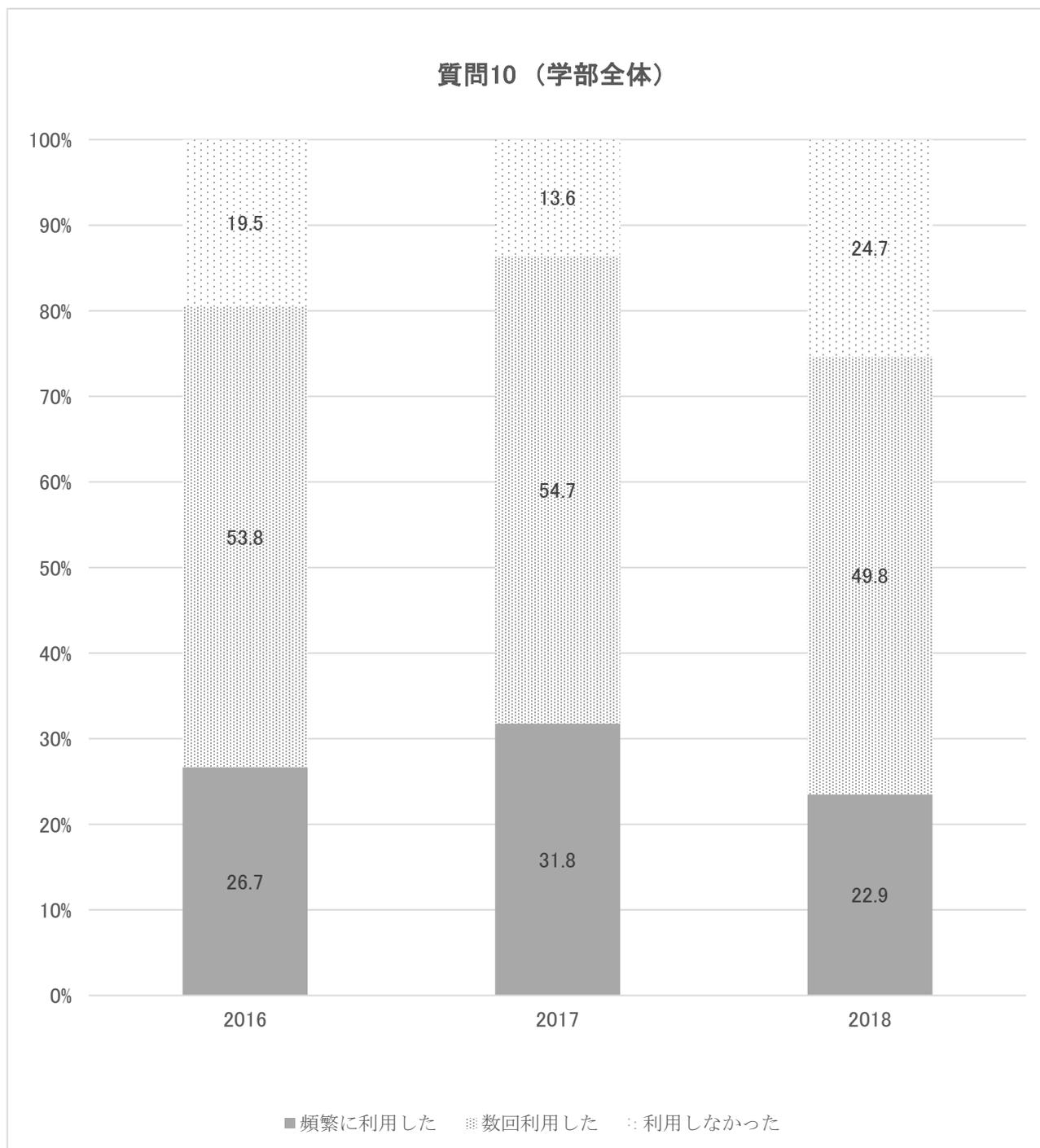
質問9（地域みらい学科）



質問10 キャリアセンターの利用に関し、あなたはどれくらい利用しましたか。

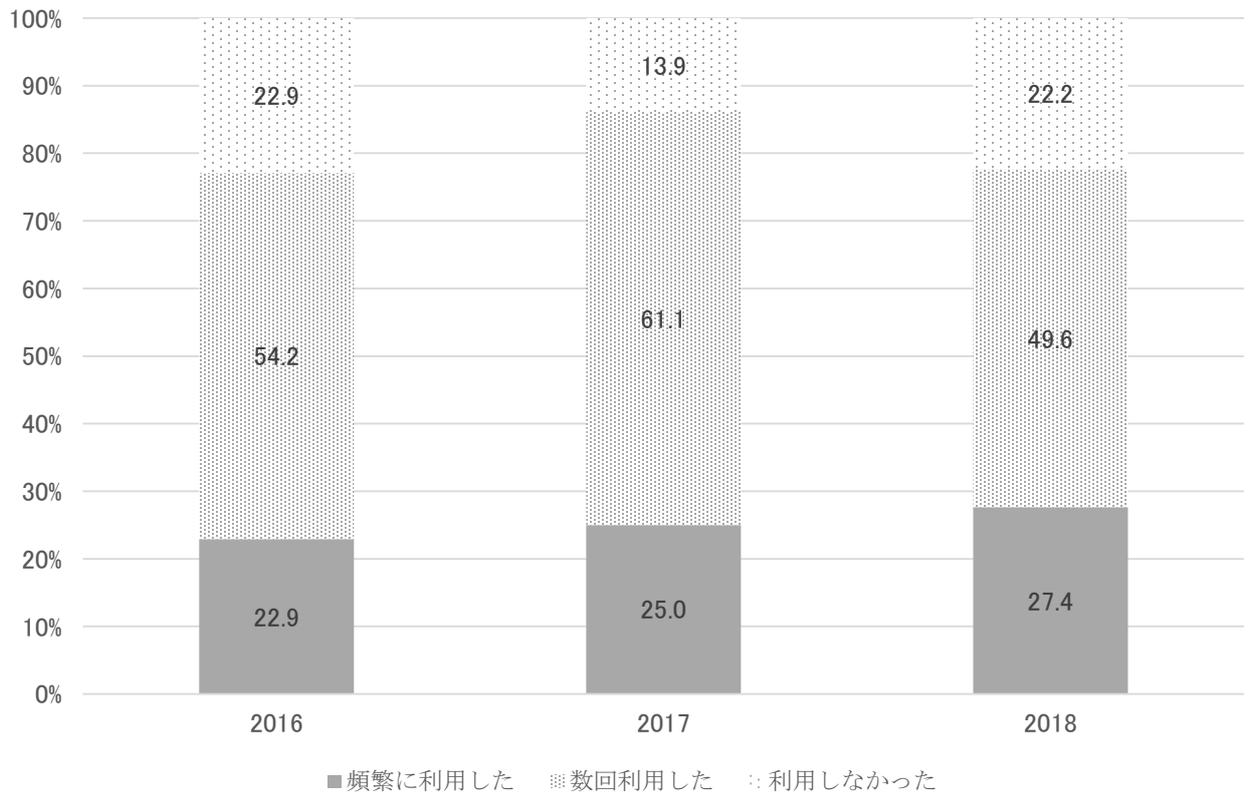
【選択肢】

- 1：頻繁に利用した。
- 2：数回利用した。
- 3：利用しなかった。

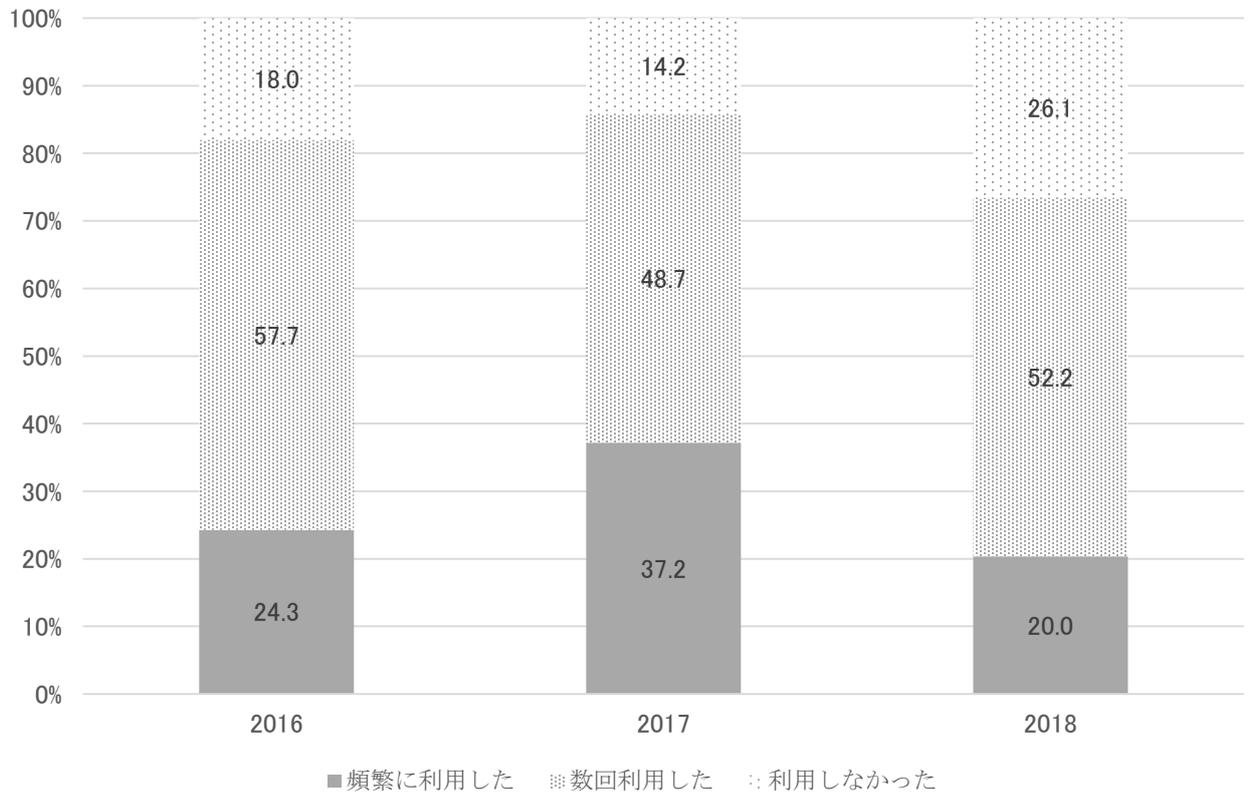


過去3年間において、回答状況に変動はあるものの、「頻繁に利用した」「数回利用した」という回答が70%以上を超えていることから、多くの学生が一度はキャリアセンターを利用したことがあると言える。

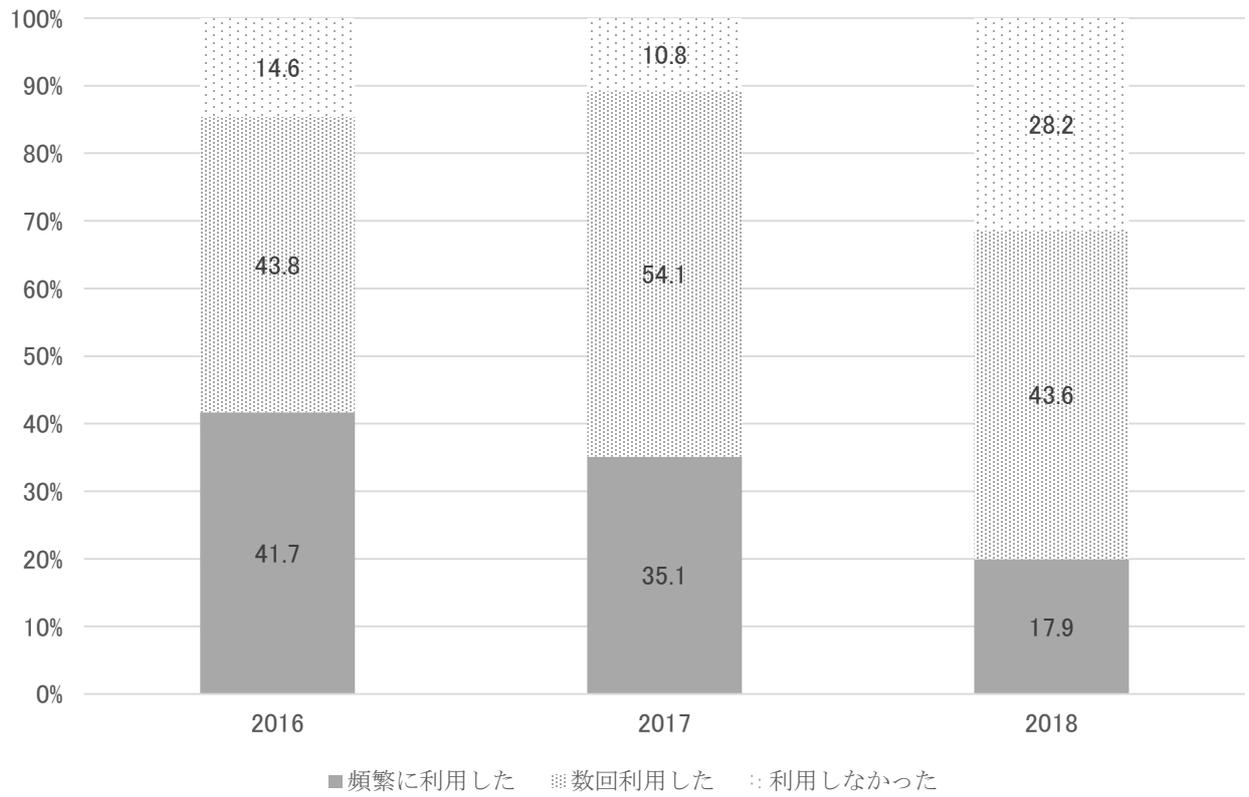
質問10（経営学科）



質問10（経済学科）



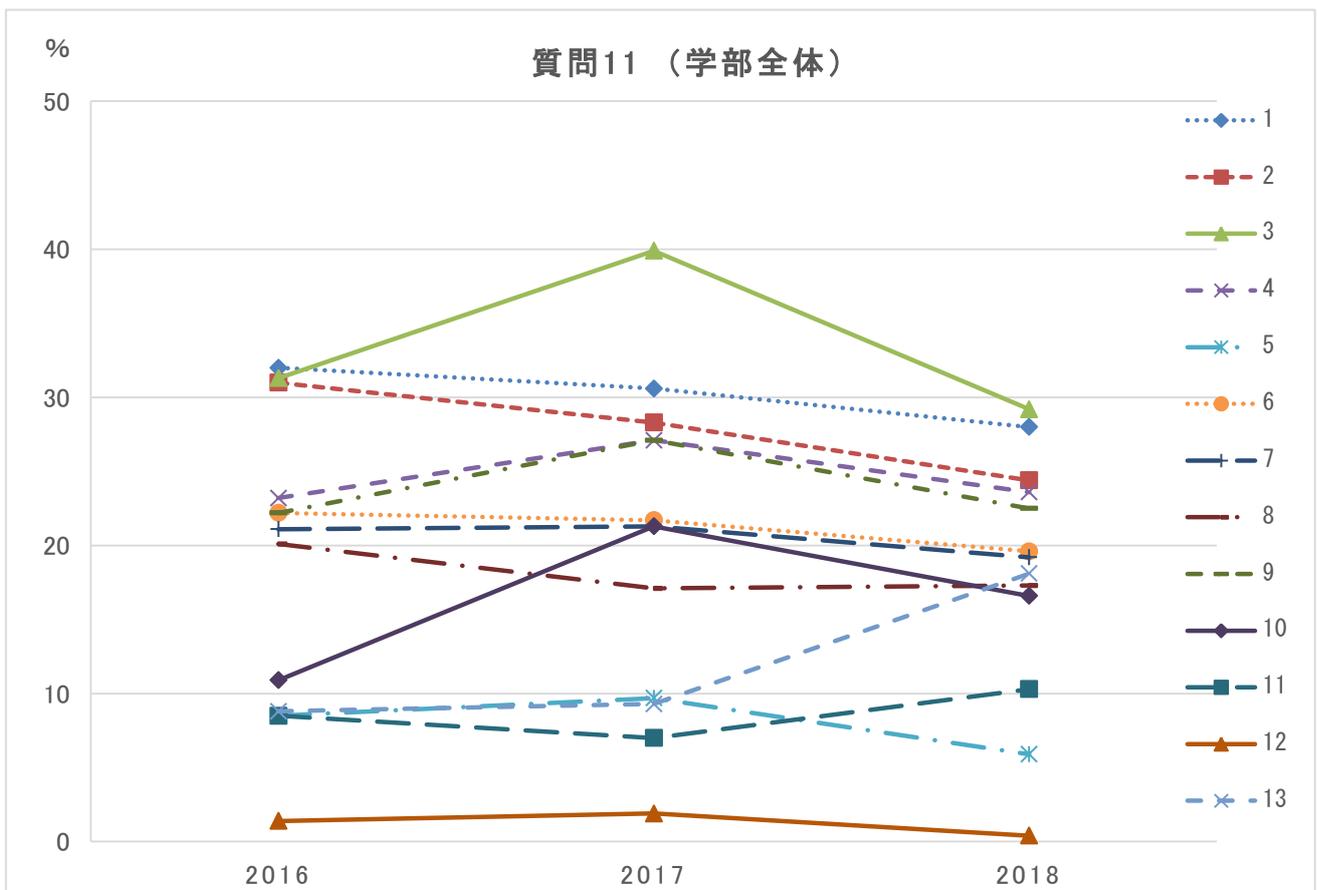
質問10（地域みらい学科）



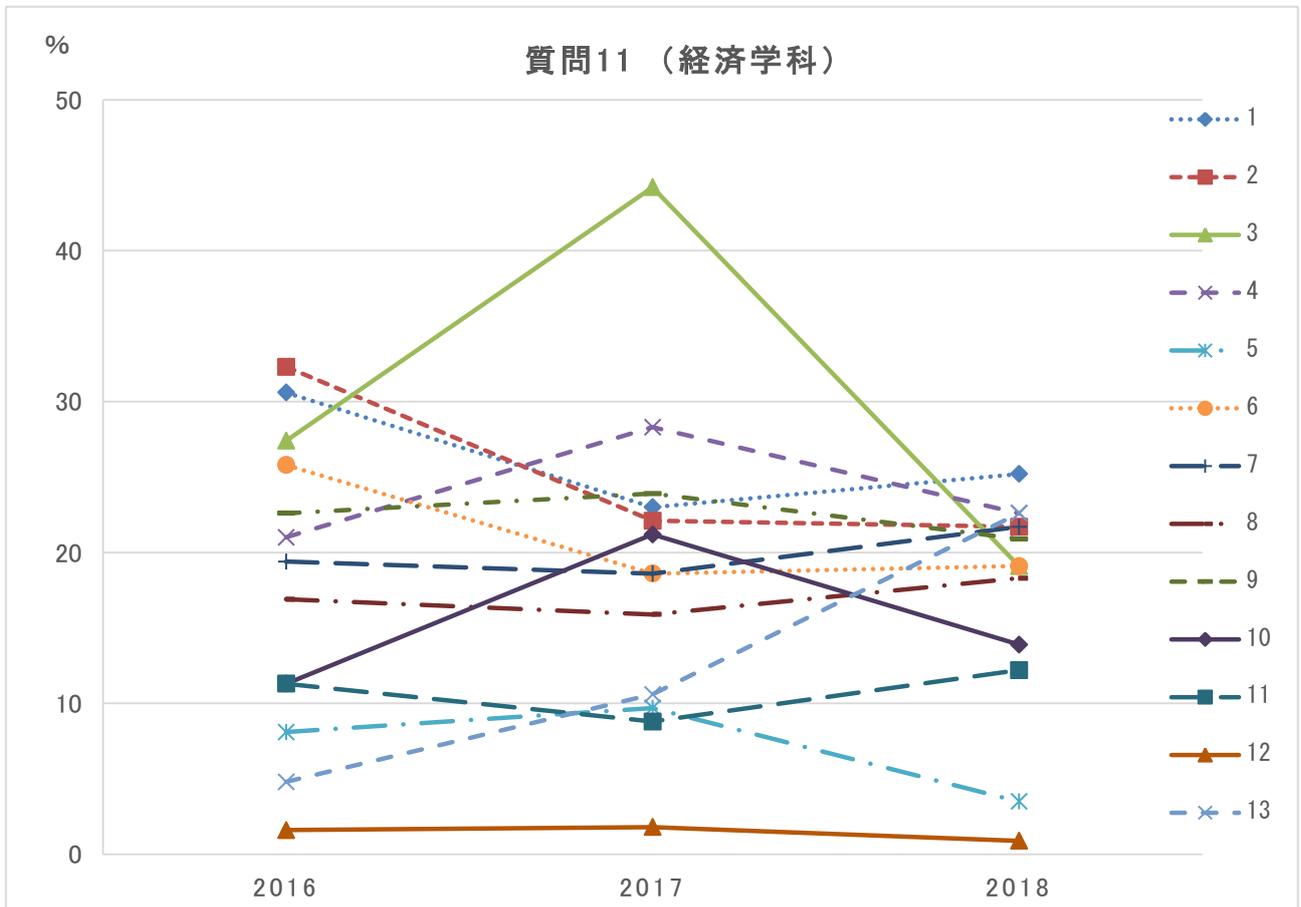
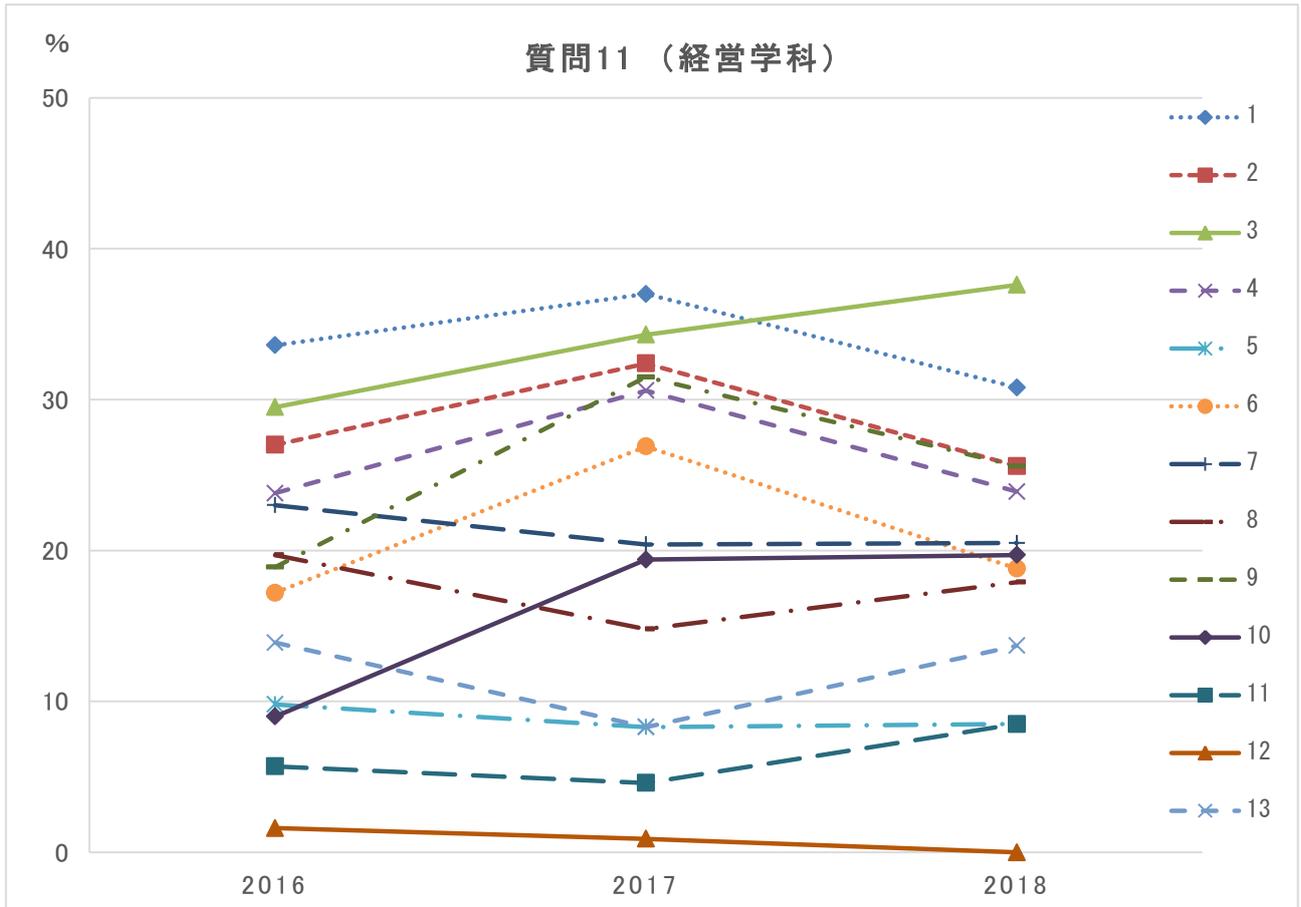
質問11 キャリア形成関連に関し、青森公立大学はどの分野、どの支援を充実させることが望ましいと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

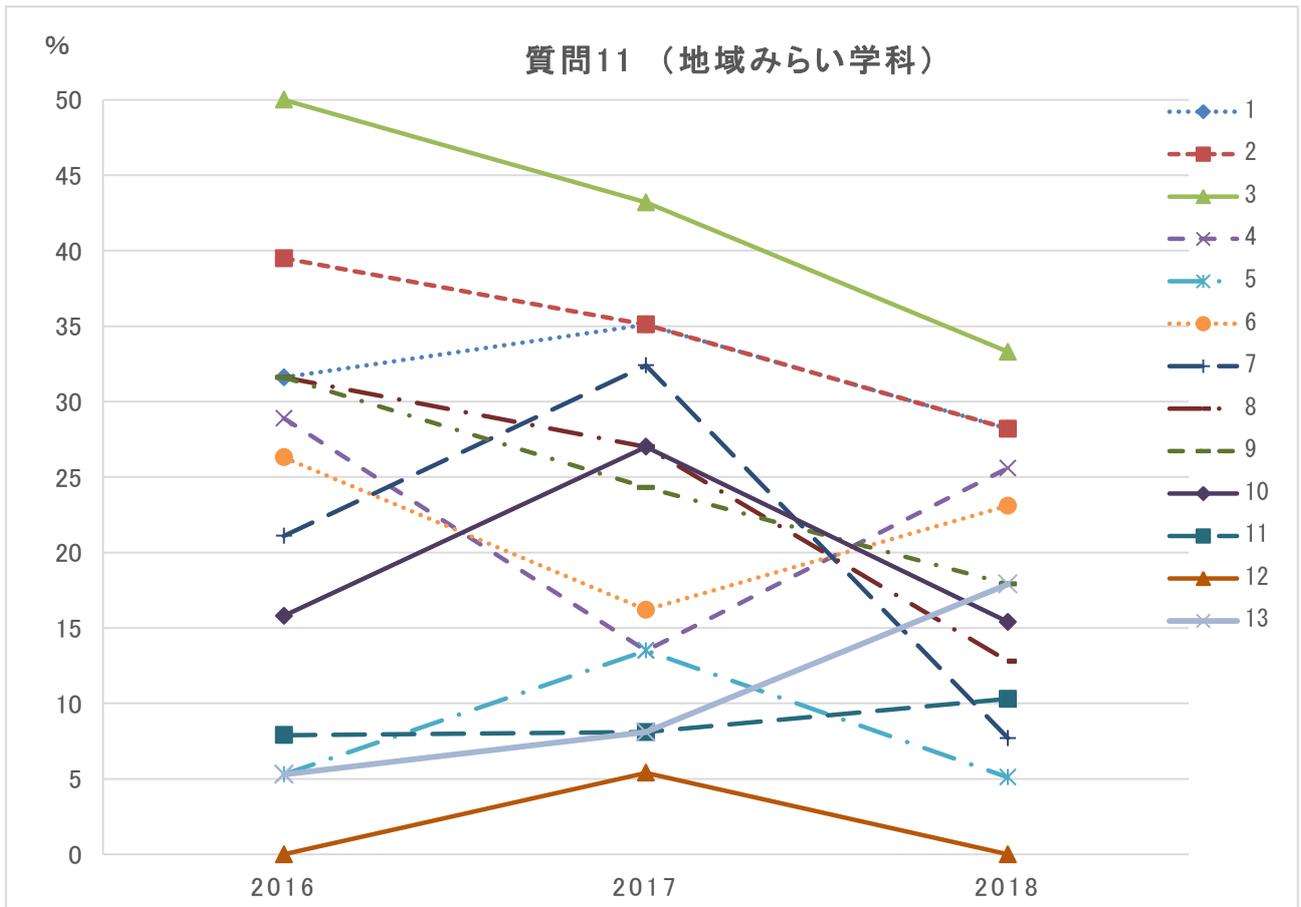
【選択肢】

- 1：相談員からのアドバイス
- 2：求人情報や企業情報
- 3：OBとの交流会
- 4：面接トレーニング
- 5：キャリア教育科目・講座
- 6：職業適性検査の支援
- 7：就職ガイダンス
- 8：業界ガイダンス
- 9：企業説明会
- 10：インターンシップ
- 11：公務員講座
- 12：その他
- 13：わからない。



過去3年間において、回答状況に変動はあるものの、「1：相談員からアドバイス」「2：求人情報や企業情報」「3：OBとの交流会」の支援の充実を求める回答が多く、学生にとって関心が高い支援であると言える。その一方で、2016年度から2018年度において、「13：わからない」と回答した卒業生の割合は約10%増加している。





4. データ解釈にあたっての覚え書

以上の図は、卒業アンケートの結果を時系列での性質に注目して分析するという問題意識に基づいて、各項目の回答の推移をグラフにしたものである。時系列でデータを吟味することで、回答の「一時的な変動」と「安定的な傾向」とを識別しやすくなることが期待される。以下にこれらのグラフから見てとれる幾つの特徴と、その解釈にあたっての留意点を記す。

まず、項目によって年度ごとの変動が大きいことがわかる。このことから、ある年に起きた一見大きな増加あるいは減少について、一喜一憂するのは生産的ではない。むしろ、回答の傾向を読み取るにあたっては、変動の幅にかかわらず、系列が一定の平均周りで変動しているようであればその平均値に着目したい。あるいは、右上がりまたは右下がりの単調なトレンドが見て取れるならば、その趨勢を把握することが重要であろう。

なお、3 学科の中では、地域みらい学科の回答の時系列での変動がもっとも大きいことが、グラフから見て取れる。この事実を説明する一つの仮説は、地域みらい学科は回答者が少ない（経営学科、経済学科の約 1/3）ためだ、というものである。一般に、標本サイズが小さいほど、特定の指標の標本毎のばらつきは大きくなるためである。

次に、各年度についてあてはまる注意点に触れたい。一般的に、多項選択形式の集計結果の解釈は注意して行わなければならない。特に、どの分野の支援を充実させるのが望ましいかをたずねている質問 4、質問 7、質問 11 については、質問文が多義的な文章となっているため解釈が難しい。すなわち、これらの質問項目の回答には、内容が良かったからさらに充実させるべきなのか、あるいは内容が良くないからもっと充実させてほしいのか、という両方の可能性がある。したがって、これらの結果を解釈するには、他の質問項目の回答傾向や自由回答の記述なども照らし合わせる必要がある。

このように、図を用いて回答の特徴に関する事実を把握することが第一の作業であるとする、第二の作業は、その因果関係について仮説をたてることである。回答を左右する要因には様々なものが考えられる。カリキュラム改正、教職員の数の変動、科目担当者の変更、学生の質の違い、同級生間の影響（peer effect）、その他。このように因果関係について仮説を立てたならば、次の作業はその仮説の実証的な検証であろう。

ただし、因果関係に関する仮説を厳密にテストすることは通常、容易ではない。特に、卒業アンケートの回答を規定する要因に関してデータを収集するためにはかなりの時間的・人的なコストがかかることが予想される。

以上